

令和4年9月12日

1. 出席議員

議長	吉川里己	副議長	松尾初秋
1番	古賀珠理	2番	山崎健
3番	毛利清彦	4番	中山稔
5番	江口康成	6番	吉原新司
7番	朝長勇	8番	豊村貴司
9番	上田雄一	10番	古川盛義
12番	池田大生	13番	石橋敏伸
15番	末藤正幸	17番	山口昌宏
18番	牟田勝浩	19番	杉原豊喜
20番	江原一雄		

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	川久保和幸
次長	山口美矢子
議事係長	奥幹久
議事係員	木寺裕一朗
総務係員	蒲地理子

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	松	尾	文	雄
総	務	部	諸	岡	利	幸
企	画	部	庭	木		淳
営	業	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	黒	尾	聖	洋
福	祉	部	松	尾		徹
福	祉	部	後	藤	英	明
こ	ど	も	秋	月	義	則
こ	ど	も	諸	岡	智	恵
ま	ち	づ	野	口	和	信
環	境	部	山	口	智	幸
総	務	課	江	上	新	治
企	画	政	弦	卷	一	寿
財	政	課	藤	井	喜	友
会	計	管	谷	口		勝

---

議 事 日 程 第 4 号

9月12日（月）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

日程第2 議提第1号 はがくれ時評に関する申し入れを行う件（趣旨説明・質疑・所管常任委員会付託省略・討論・採決）

---

令和4年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議員名	質問要旨
8	7 朝 長 勇	1. 市民生活を守るための金融知識の啓発について 2. コロナ第7波の状況について 3. 学校でのマスク着用について
9	5 江 口 康 成	1. AEDについて 2. 公共施設の駐車場について 3. 業務委託について 4. 武雄市都市計画マスタープランについて 1)公園について 2)ゴミ削減について 3)治水・減災について
10	4 中 山 稔	1. 子宮頸がん検診と子宮頸がんワクチン接種について 2. 武雄市ごみ分別と新法「プラスチック資源循環促進法」について 3. 武雄市の定住・移住政策と子育て支援について

---

開 議 9時

○議長（吉川里己君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

議員から提出されました議提第1号を追加上程いたします。

日程に基づき市政事務に対する一般質問を開始いたします。

それでは、最初に7番朝長議員の質問を許可いたします。御登壇願います。7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

(全般モニター使用) おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、7番朝長勇の一般質問を始めさせていただきます。

スライドの表示を、スライドショーのほうをお願いします。

前回の一般質問でも取り上げましたけれども、今、日本の経済というのが非常に停滞しておりまして、今のウクライナの情勢とかも絡めて、物価の上昇というのが非常にここ最近激しくなって、市民生活が圧迫されているということは、皆さんももう感じておられると思います。

これに対して様々な補助金とか助成金とかが救済策として施されているわけですが、まだまだこのインフレ、物価上昇、続きそうな状況でございます。

そういったときに、短期対策は短期対策で当然やっていくとして、それと並行して、市民の生活を守るための長期的な取組というのが必要になってくるかと思えます。

こういった考えに基づいて、一つの方策を考えた場合に、今、日本では非常に金融教育が遅れているという指摘が多くされております。

まず、経済の仕組みを知って、市民一人一人が自分の生活を守る知恵とか知識を身につけてもらおうと、そういったことをやらないと、とても公共の市の財源を使って、補助金、助成金を出し続けるという政策ではもう長続きしないということで、そういった考えに基づいて質問をさせていただきます。

では、最初の質問ですが、政府のほうでも、去年から中学校ですかね、今年から高校でも学習指導要領が改定されまして、金融経済教育が開始されていると聞いておりますけれども、この理由といいますか、基本的な目的といいますか、そういったものについて、まずお尋ねいたします。

○議長(吉川里己君)

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

おはようございます。議員御指摘の金融教育についてでございますけれども、まずは、これまでの流れということで説明させていただきますが、戦後間もない昭和27年に人々の健全な生活を実現するために、貯蓄を大切とする目的で、貯蓄増強中央委員会が設立されております。

その後、時代とともに変化していく活動実態に合わせて、貯蓄広報中央委員会、金融広報中央委員会というふうに名称が変わりまして、これは事務局が日本銀行の中にありますけれども、そこで金融の広報活動をされてきたいきさつがございます。

それを受けまして、学校教育においても、児童生徒の発達段階に応じて、現在及び将来の生活を支える金融、経済に関する正しい知識または金銭や物に対する健全な価値観ということを養うことは非常に大事でございまして、学校においても、金銭教育という名の下に、こ

れまでも授業、あるいは学習を実施してまいりました。

モニターをお願いします。

(モニター使用) 学習指導要領改訂されまして、現在の小学校家庭科、あるいは中学校家庭科、中学校の社会、公民分野でございますが、こういった教科において金融教育というようなことで、例えば小学校の場合は、生活を支えるお金と物、あるいは中学校公民では、市場経済の仕組みと金融というようなことで行っているところでございます。

#### ○議長(吉川里己君)

7番朝長議員

#### ○7番(朝長 勇君)〔登壇〕

おっしゃるとおり、非常にこれから日本人というか、生活を守る上で金融の知識というのは、もうずっと早くから言われていたんですけれども、非常に、私から言うと、やっと始まったかという感じを持っております。

これって、やっぱり教育というのは非常に社会人になってからの行動というんですかね、経済活動に大きい影響を及ぼしていくので、非常に大事なものだろうと考えております。

ここで、これを聞いていらっしゃる皆さんにも、その重要性というのをいかに認識するかというのが非常に大切だと思うんですね。

簡単に言えば、今、社会人、私たちはそういう教育を受けていないまま社会人になっているわけですね。

そういった状況を踏まえて、日本の経済の状況というのをちょっとざっと見ると、これは前回も出しましたけれど、ここ30年間、失われた30年とか、20年とか言われますけれども、ほかの先進国とか中国とかに比べて、GDPの伸びというか、日本はもうほぼ伸びていないんですよ、他国が伸びている状況で。なぜこんなことになっているのかと。

いろんな理由があるにしても、その大きな一つとして、金融教育の遅れがあると。

これは、ちょっと古いですがけれども、2015年の各家庭の金融資産の状況ということで、これは金融庁の資料ですがけれども、アメリカ、イギリス、日本を比較してあるんですが、ちょっと見にくいと思いますので、重要なところだけ抜き出すと、個人資産のうち、アメリカは現金・預金が13.7%、株式・投資信託で45.4%を保有しているという状況で、イギリスについては現金・預金が24.4%、株式・投資信託が35.7%と。日本については現金・預金が51.9%、半分以上がやっぱり現金とか預金。株式・投資信託というのが18.8%ということで、欧米諸国に比べて、非常にやはり投資に対して消極的というような状況があります。

この結果どうなるかというのと、これがまたイギリス、アメリカ、日本の比較ですがけれども、金融資産の推移ですね。

1995年から2015年までの20年間で、アメリカの場合、アメリカ人の人たちは3倍以上に、3.11倍に増やしている。イギリスに至っては2.27倍。日本については、なかなか経済が

成長しないということで、1.47倍ということで、どんどん格差が広がっている状況です。

日米の家計所得を比べても、アメリカは順調に増えていますが、日本はどっちかというともう、減り続けているんですね、家計所得。非常に生活が苦しくなっている、そういう状況です。

これも金融庁の調査なんですけれども、何で投資が必要ないと思うかという調査があっているんですけれども、まず、そもそも興味がないとか、怖いとか、ギャンブルみたいと、非常に投資に対する、ネガティブというか、消極的。やっぱりこれは知識がないということが非常に大きいと思います。

そもそも、なぜ金融教育が遅れたのかということで、先ほど教育長から説明がありましたけれども、もう政府主導で貯蓄が奨励されてきたわけですね。

そもそもの発端というのは戦争。負けたことによって、非常に何もかもが足りない状態で、インフレを抑制するために、まずはもう、みんなが物を欲しがると物価が高騰して経済が混乱するので貯蓄をしてくださいということで、ずっと貯蓄、貯蓄ということで、言葉は悪いんですけれども、国民に刷り込んできたわけですね。貯蓄は大事、貯蓄は大事ということで刷り込んで、結果として、高度経済成長を成し遂げたおかげで、よかったわけですね、これで。

ところが、やっぱりバブル経済の崩壊あたりから、もうそれ、貯蓄だけでは経済が伸びないというふうな状況になって、さっきも言われました、貯蓄から金融という言葉に変わってきたわけですね。

そして、やはり年金の将来とかも非常に不透明な部分が出てきて、個人で確定拠出年金とか、iDeCoですね、簡単に言うと、導入されたと。

平成17年に金融教育元年ということで、金融教育をやろうという動きは出てきたんですけど、なかなか広まらないということで、平成26年に少額投資非課税制度、いわゆるNISAが始まったということなのでですけど、なかなかこれも利用する人が少ないという状況になっていると。

それで、やっと、さっき言った、学校での教育が始まったということなんですけれどもね、それでやはり、さっき、これも説明したように、やっぱり資産運用とか、そういう知識がないと、非常に将来の人生設計とかが大きく変わってきます。

まさに今、ここにいる人たちは、そういう教育を受けていないわけですね。だから、知らない、分からない。

NISAとか、iDeCoとか、聞いたことさえないという方も多いかと思いますが、金融庁とかは非常にこれを広めようという取組をやっております。

知識がないからですね、NISAとかiDeCoとか、制度はできたけれども、どうしていいか分からないという人が、——私もちょっと落選中にいろいろセミナーとかを開いてきましたけど、——制度があるのは知っているけど、何か分からんということで、結果どうな

るかという、例えば公務員、市の職員さんが退職して、退職金が入りますと。そしたら、金融機関の営業マンとかが来たりするわけですね。今から運用したほうがいいですよ。そうしたら、営業マンに言われるままにどーんと退職金を投資したりすると。

すると、やっぱり景気に波がありますから、下がることもあるわけですね。そのときにもう知識がないと、下がったときに怖くなって売ってしまう。そしてどうなるかという、お先真っ暗と、将来設計もがたがたに崩れると、そんなことにもなりかねないわけです。

金融教育が充実すれば、いろんな効果が、年金などの将来不安とか所得向上、武雄市の経済活性化、貧困の連鎖の脱却、こういった効果が期待できると思うんですね。

さっき言ったように、私たち、今の現役世代って金融教育を受けていないと。こういう世代について、武雄市としても啓発に取り組むべきではないかと思うんですけども、これについて見解をお尋ねいたします。

**○議長（吉川里己君）**

諸岡こども教育部理事

**○諸岡こども教育部理事〔登壇〕**

おはようございます。私たちが、より安心に、また、より安定した生活を送るために、金融に関する知識や適切な判断力を身につけることは必要と考えます。

現在、武雄市図書館・歴史資料館の講座で、毎月金融セミナーや相談会を開催しております。

また、県では、佐賀県金融広報委員会を設置し、公民館や地域サークルの講座学習会などに、要望に応じて、無料で金融広報アドバイザーを講師として派遣されております。

武雄市では、市民向けの出前講座を実施しており、金融教育についての相談があったときは、このような講座を紹介したいと思います。

**○議長（吉川里己君）**

7番朝長議員

**○7番（朝長 勇君）〔登壇〕**

行政のほうとしてもいろいろ啓発活動をやっているかと思いますが、さっきのアンケートにもあったように、そもそも興味がないという人はそういうのを受けないわけですね。そういった意味では、こちらから積極的に、何とかその必要性を感じてもらえるような仕組みが必要ではないかと思います。

そういった観点から、武雄市の基金とかの運用をもう少し積極的にできないかとかと考えるんですけども、今の、大体100億ぐらいありましたかね、武雄市の基金の運用状況、運用の方法とか利率、運用利率がどのくらいなのかというのをお尋ねいたします。

**○議長（吉川里己君）**

谷口会計管理者

## ○谷口会計管理者〔登壇〕

おはようございます。ただいまの議員の御質問についてですけれども、基金の運用方法につきましては、市内金融機関への定期預金、それと、国債、地方債の購入を行っているところでございます。

また、運用利率につきましては、現在、定期預金で0.002%から0.06%、国債、地方債で0.205%から0.80%、そういったところでございます。

## ○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

## ○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

今の答弁によると、基金の一番高い利率で0.8%でしたかね、一番低いので0.002ということで、ほぼ増えないというのが、実際の今の金融機関の利息とかは、現状です。

そういったときに、では、どうするかと。

定期預金では運用にほぼなっていないような状況ですね。今のインフレとかには全然追いつかないということで、ここで国民の年金ですね。

すみません、年金の話に入る前に、これは一時期売れたんですけども、トマ・ピケティの21世紀の資本という本があります。これは、過去200年の世界の経済を分析して、実際に世界の経済がこれまでどうなっているかということで、資本収益率というのは、経済成長率を既に上回っているということを実際の調査で証明したと。

非常に分かりにくいですがけれども、簡単に言うと、株価の成長というのは、働いてもらう給料の上昇よりも大きいと。もっと平たく言うと、投資をする人としらない人の格差はどんどん広がっていくというようなことが書いてあります。これ知っている人は多分、それなりに話題になったので御存じかもしれませんがけれども。

基金の運用について、参考にしてほしいなと思うのが、年金。私たちの年金も実は運用されております。御存じない方、多いと思いますけども。

年金積立金管理運用独立行政法人という、非常に長いんですけども、略してGPIFと言いますけれども、これ全部ではないですけど、私たちが納めている年金の一部がこれで運用をされております。

どんな運用をされているかということ、外国株式が4分の1、国内株式4分の1、国内債券4分の1、外国債券が4分の1ということで、結果どうなっているかということ、これが2001年から最近の、今年の6月までですかね、このグラフは。平均の収益率が3.56%ということで、20年間の総収益が101.7兆円という運用益を出しているわけですね。

実際、途中経過を見ると、下がっているときもあるんですけども、この経済というのは生き物ですから、下がることもありますね。

どうしても、日本人は下がることを怖がって運用しないという方が多いんですけども、



長期的に考えれば、もう世界の経済が、生きている限りは成長していくわけですね。

そういった長期的な観点に基づけば、やはり市民への啓発というのも含めて考えれば、例えば簡単に言うと、同じ2001年から武雄市の基金を、100億円を年金と同じような運用をしておけば、七十数億円の運用益が出ているわけですよ。これが現実なんですね。100億円が170億円になっているわけです。

そういった状況を踏まえた場合に、武雄の基金も、いきなり全部はやらないほうがいいと思いますけど、少しずつですね、1%ずつとか、5%とか、それを運用して、それを市民に知らせていくことで、ああ、運用って大切なんだなという意識啓発にもなると思うんですけども、この基金の運用について、こういう、まずは年金基金と同じような運用ができないかお尋ねいたします。

**○議長（吉川里己君）**

谷口会計管理者

**○谷口会計管理者〔登壇〕**

議員の質問についてですけれども、基金の運用につきましては、現在、地方自治法、地方財政条例、そういった条例などにより、確実性、元本保証がある、そういったものを最優先とし、効率的な運用に努めているところでございます。

先ほど年金の例がありましたけれども、購入できる債券は、市としては、国債、政府保証債、地方債、そういったものに限っております。

そういう意味において、先ほど年金の例がありましたけれども、リスクがあり確実ではない国内株式、外国株式、外国債券での運用は考えておりません。

**○議長（吉川里己君）**

7番朝長議員

**○7番（朝長 勇君）〔登壇〕**

武雄市としては、そういう法律があると、それを逸脱してというわけにはいかないでしょうけれども、私から言わせると、逆に法律のほうを追いついていないということですよ。

政府として、国民に資産運用を勧めておきながら、法律で基金の運用は、定期預金とか、地方債とか、そういうものに限るということは、非常に矛盾を感じますよね。

逆に法の改正が追いついていないということも感じますので、そこはちょっと私のほうも、別の方策といいますか、研究をしていきたいと思っております。

そういった枠を取っ払えば、もう逆に運用をしない、投資をしないというのは確実ではありませんけれども、何が確実かという、確実に減っていくわけですよ、価値が。それを確実として、安心してはいけません。

インフレが、例えば世界各国は大体インフレ目標2%目標ぐらいで、経済の運用をします。ということは、最低でも2%ぐらいは増やしていかないと、確実に減っていくということな

んですよね。そういう認識が日本人はなかなか持てないわけです。

数字は一緒でも価値が減っていると。

例えば個人でもガソリン入れようと思ったら、1万円で何リッター入れられるかって、もろもろ減っていますよね。それと同じで、金額は同じでも価値は減っていると。

今言われた確実というのは、確実に減っていくということだというのは認識をしていただきたいと思います。

それで、ちょっと市長にも、こういった資産運用についてどう考えるか、法を逸脱したようなことはできないかと思えますけれど、非常にこの重要性、市民一人一人が金融の知識を身につけて運用することの重要性について市長自身はどう認識をされているか、ちょっとお尋ねいたします。

### ○議長（吉川里己君）

小松市長

### ○小松市長〔登壇〕

おはようございます。金融教育については私も大事だと思います。ちょうど政府も、金融教育を国家戦略にしようという話も今ありますし、やはりNISAの拡充というところも進められているので、私たちとしては、しっかりその動きにとにかく乗り遅れずに、武雄市でも積極的にやっていく必要があると思っています。

やはり大事なのは、資産運用というのは投機ではなくて資産形成が目的であるとか、あとは、それを知った上で、まずは、私はNISAなんかいいんじゃないかなと思うんですけども、やるんだしたら、まず、ちょっと実際にやってみるところがセットであれば、金融教育というの、勉強して終わりではなくて、意味が出てくるのかなと思っています。

市のほうの資産運用ですけれども、先ほどありましたとおり、地方自治法で、やはり確実かつ効率的とあります。確実というのは、現在、法律上、元本保証、流動性を確保しなさいと。効率的というのは、適正な利回りということで、先ほどお示しになられたGPIFよりは、多分これ条件はかなり厳しいんじゃないかなと、現状ですね、思っています。

そういう中でも、やっぱりしっかりと運用していくのが大事でして、これまでも会計課のほうでも、いろいろ工夫をして、例えば基金を一括運用しようと。

それぞれ別々ではなくて、規模を上げることで、よりリターンの額を増やしていく取組とか、そういうこともしていますし、多分、今後は今の法律の範囲内でまずはできることをやっていこうということで、例えば国債や地方債の割合を、現金はある程度持っていなければならないですけども、どこまで増やしていけるか、増やしていけるところは増やしていきたいと思えますし、あとは長期債券を借りられる範囲で借りていくとか、そういった現場での工夫を今の法律の範囲内で、私たちとしてはしっかりと、さらに工夫をして、少しでも財源確保に努めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

7 番朝長議員

○7 番（朝長 勇君）〔登壇〕

まずは、その法の範囲内でできる範囲で、市民の大切な財産を預かっているんだという意識を、ただ数字上減らなければ、それで安心ということではないということだけは認識をしていただいて、効率的な運用のほうを目指していただきたいと思います。

実際、個人も、市長も言われましたけれども、投資というとえらい何か大きいお金を用意せないかんとかですね、何かもう非常に誤解が多いわけですね。

そういう意味では、婦人会とか敬老会とか、積極的にこちらからPRして、セミナーを聞いてもらうとかですね。

例えば市報にそういう金融ミニ知識を継続して載せていくとか、ちょっとでも興味を持ってもらえるような。市の基金を増やすということよりも、私はそういう市民一人一人の啓発のほうに軸足を置いてやっていくほうが、逆に基金の運用とかにも市民の人たちが関心を持つというような、環境がよくなるというんですかね、そういう取組をやっていただきたいと思います。

それでは、次の質問に入ります。

コロナ第7波の状況についてということなんですけれども、これちょっと、いろんなマスメディアの報道とかを見ていまして、8月17日の中日新聞記事ですね。今、非常にコロナ感染者が増えているということで、感染者の数ばかりが何か、とりわけ前面に出されて、非常に不安をあおるような状況になっているような懸念を私は抱いております。

確かに、熱が出たりとか、実際かかって苦しんでおられる方がおられるのも確かではあるんですけれども、それを実際、冷静に状況を把握するという意味では、この数字の発表の仕方というのが非常に大事になってくると思います。

それで、中日新聞の8月17日、繰り返しになりましたけど、愛知県内の第7波でコロナ肺炎単独の死因はゼロと、これは見出しですけれども。

いわゆるコロナ死者というのは、死んだ人が陽性だったという場合に、コロナ死者として全て計上されているわけですね。ほかの病気であっても、事故であっても、陽性だったらとにかく、死んだ人がコロナ陽性だったということで計上されているようなんですけれども、これを愛知県知事が、6月20日以降、ここから第7波と仮にしたときに、8月15日までのコロナ死者、愛知県内のコロナ死者は235人でしたと。

これを詳しく調べた結果、いわゆるコロナにかかって、コロナが重症化して肺炎になって亡くなったと、いわゆるコロナ肺炎単独での死亡例というのはなかったということなんです。これ非常に、簡単に言うと、コロナ肺炎単独の死亡例はゼロということですよ。

大体、マスメディアに取り上げられる数字はコロナ死者の235人ということで、全く、実

際、今、コロナがどういう状況なのかというのを把握する上では、非常にこの数字の出し方というのは、全く違った印象を与えてくるということで、これを見て、では、佐賀県はどうなんだと。多分、大差はないと思うんですけども。

同じような観点で、期間は違ってもいいんですけども、こういうコロナ肺炎単独で亡くなった方というのの死亡例を佐賀県では把握できていますかと。

把握できていれば教えてほしいというのが質問です。お願いします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

おはようございます。佐賀県において公表されている死亡者数につきましては、新型コロナウイルスに感染中に死亡された方全てを集計しており、直接の死因別での集計は行っており、コロナ肺炎での死亡者数は不明ということでありました。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

非常に私はその辺は、細かい分類をして、やはりそういう情報をしっかり知らせるというのが行政としては必要ではないかなと感じております。

特に、どうしてもテレビとか新聞の報道に皆さんの意識が持っていかれてしまう面があるので、非常に実態を把握するというのが難しい状況かなと思っております。

そういった中で、先ほどの中日新聞の続きなんですけれども、コロナ肺炎単独じゃなかったら、じゃあ何が原因で亡くなったのかということなんですけれども、高齢だったり、持病がもともとあったりする感染者の多くが老衰や持病の悪化などで命を落としていると見られるという、その後の記事がこう書いてあるわけですね。

こういったところで、コロナ肺炎単独での数字が分からないと、佐賀県では分からないわけなんですけれども、死亡された方々の平均年齢が大体分かれば、ここにもあるように、老衰とか持病の悪化ということで、平均年齢が分かれば、そういった状況把握の助けにもなるのかなと思います。

なかなか詳しい情報まで把握できていないかもしれないですけども、分かる範囲で結構ですので、コロナ死亡者の年齢ですね、平均年齢、いつからいつまでで何人亡くなられて、その亡くなられた方の平均年齢が何歳でしたというようなデータがあれば教えていただきたいと思います。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

今年7月21日開催の、これも県になりますけれども、県の新型コロナウイルス感染対策本部会議、その中の資料によりますと、オミクロン株が流行し始めました今年1月1日から会議開催日の7月21日までの期間に亡くなられた方は88人で、その平均年齢は86.2歳と示されております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

データとしては7月まで、正月から7月までということでしたけれども、平均年齢が86.2歳ということで、大体状況としては、ここの記事に書いてあるような、老衰とか持病の悪化で、コロナ肺炎単独という方は少なかったんじゃないんだろうかと、ちょっと予測するしかできないですけれども、区別して統計を取っておられないということですね。

こういったことを、考えたときに、例えば佐賀県の平均年齢、——平均寿命か。これは平成27年ですけれども、そう大きくは伸びていないと思うんですけれども、女性が86.98歳と、男性が80.77歳ということで、先ほど教えていただいたデータ、男女の区別は分からないわけですけれども、大体半々ぐらいとすれば、平均寿命というのは男女の平均で84歳ぐらいですかね。ということは、先ほど、コロナ死者ということで、佐賀県で計上されている方の平均年齢は、平均寿命よりも長生きされているということになりますね。

ここで、やはりこういった情報が分かることによって、私もいろんな組織じゃないですけど、地区の会合とかに行き、行事をするかしないかとか、あっちではしよんさあけど、こっちでは、んにやまだちょっと近所にかかるとんさあ人のおんさあばいとか、非常に迷われているというんですか、やめておこうかと言われると、なかなか、いやしゅうさとは言われんと、グラウンドゴルフとかでもですね。

つい最近も、先日、私が所属しているコミュニティーでも、グラウンドゴルフが中止になったんですけれども、なかなかそうなるも、もうよかさ、しゅうさとは言われんと、しよんさあそこはしよんさあばいと言うですけどね。

そういった中で、やっぱり、こういった問題を捉えるときに、コロナがはやっている、これは事実かもしれないですけれども、非常に重要なのは、やっぱり死生観だと思うんですね。

何のために生きて、どうやって死ぬのかと。何のために生きるとか。何でもかんでも我慢して長生きさえすればいいのかという、そういった、平均寿命が、死亡された方の年齢がもう、大体もう老衰とか、そがんごたけんが、グラウンドゴルフぐらいはしゅうかとか、そういう、やっぱり人生を楽しむというか、人生の質、そういう幸せに暮らすといった観点で、このコロナ禍の現状を捉えるというのは大切じゃないかなと思っております。

その一助になればと思って、質問を取り上げてみました。

それでは、次の質問に入ります。

学校でのマスク着用についてということなんですけれども、前回は触れましたけれども、マスクを長時間、毎日毎日着用することでいろんな弊害が指摘されております。

今回もですね、——今回は、実際、現役の歯科医師、歯医者さんの方に情報をいただきまして、その方から提供していただいた情報をちょっとここで紹介したいと思います。

具体的な内容は、執行部のほうにお渡ししているかと思えます。

それをピックアップしていくと、マスクはずっとしていることによって、呼吸が浅くなって、低酸素、酸素不足になると。集中力不足・疲労、鼻炎悪化、口腔内の環境悪化と、これは実際の現役の歯科医師の方がこういうことを感じられているわけですね。

顎の成長を妨げると、特に子供ですね。

幼少期の身体・脳の発育が遅れたら、もう取り戻せませんよと。

逆にここ、もう3年、2年半近くマスクをずっとしていたせいで、これは大人にもいっちゃるみたいですけども、逆にマスクを外すのが恥ずかしいというような感覚がもう植えつけられてきていると。

非常に懸念しております。コミュニケーション能力とかを身につけていくためにも。

私たち大人は今さらどうにもならんかもしれないですけど、小学生とか、非常に今からどんどん体も精神も発育する時期ですから、こういった時期にずっとマスクをつけているというのは、長期的な影響というのが非常に懸念されている、そういう声は多いです。保護者の方もそういう声をいただいております。

マスクの中というのは二酸化炭素の濃度が上昇するというので、自分が吐いた二酸化炭素をまた吸うと、そういうことが繰り返されるわけですね。

そして、これはアメリカの研究結果みたいですけども、コロナ禍、パンデミック中に生まれた子供のIQの発達が遅れていて、認知障害レベルの認知能力しかない、そういった研究結果も出ているということで、それにプラス、今、使い捨てのマスクをされている方多いと思うんですけども、低酸素ストレスと、あと、小さなプラスチックですね、ナノ粒子というのがどうしてもついているので、呼吸と一緒に吸い込まれるということと、マスクそのもので細菌が増殖して、それを吸い込むということによって免疫が低下して、余計感染しやすくなると。

新型コロナウイルスというのは、今のところ空気感染が多いというような話で、いわゆる飛沫ではなく、空気感染。ということは、結局、マスクの網の穴というのは、ウイルスの大きさから比べたら、はるかに大きいわけですね。専門的には分かりませんが、新型コロナウイルスは、0.1マイクロメートルですかね。マスクではもう止まんわけですよ。

要は、サッカーゴールにビー玉ば投げようごた感じということらしいです。ビー玉をサッカーゴールで止められるかと、そんな話らしいんですよ、大きさから言うと。

感染の3要素。そういう意味で、病原体を止めることもできんし、宿主、人間の免疫力も

落としてしまうと。感染経路というのは空気感染なので、マスクはもう全然役に立たないという、実際に専門家のこういう意見もあるわけです。

市販のマスク、これはさっきも言いましたけれども、マスクが製造されたときの小さなプラスチックの破片が吸い込まれて、気道や肺に炎症を起こすと。

メリットよりデメリットがはるかに上回りますよと。これは明々白々ですというような話をされております。

こういった中で、武雄の子供たちは大丈夫なんだろうかということで、学校としても、できる範囲で、マスクを外せるときは外すようにと。

なかなか上からのお達しに背くというのは難しいんでしょうけれども。

各学校とかの登下校の様子を見ていて、やっぱり学校ごとに外し方というか、外すところはみんな外しているけど、学校によっては下校中も外していないところが多いとか、そういう、学校ごとに指導の差というんですかね、今言ったように、もう外したかったら外していよというのでは、もう外さない子供が増えてきているということですよ。

そういう意味では、今言ったような弊害を考えたときに、積極的に、もう外に出るときは外しなさいと、そういう指導を、校長会とかでも情報を共有していただいて、なるべく外させるような指導を、学校によって格差があるといけませんので、そういう意識合わせをしていただいて、なるべく健康を守るという意味でマスクを外す、外せるときは外す、そういう指導をしていただきたいと思っておりますけれど、いかがでしょうか。

#### ○議長（吉川里己君）

松尾教育長

#### ○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘のマスクの着用についてでございますけれども、我々は、国あるいは県からの方針に従って指導をしているところでございます。

9月に入ってから幾つかの通知文がまいりましたけれども、その中でも、引き続き地域の実情に応じて3密の回避、人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗い等の手指消毒、衛生、そして換気等というようなことで、これらを基本的な感染防止対策の徹底ということで記載されてありまして、引き続き、マスクの着用は大事なところでございます。

ただ、夏を前にして熱中症の心配が非常に出てまいりましたので、十分な距離が確保できている場合、あるいは登下校中、体育の授業、あるいは部活動、そういったところではマスクの着用が必要でないというようなことで、熱中症対策を最優先にやってくださいということで、各学校には指導をしているところでございますけれども、若干学校によって温度差が違うということはあるかと思っております。

全てのことでマスクを外しなさいという強制的ではなくて、外してもいいですよという指導も実際あっているようです。

実際、外に出て校外学習をするとき、あるいは体育館で授業をするときなんかは、もうマスクを外しなさいというような指導がされているようですけども、場面によっては外していいですよというようなこともあっているようです。

再度、この辺については、校長会などを通じて学校に指導をしたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

どうしてもやはり、マスクをしたほうがいいのかという指導があるということなんですけど、その科学的な根拠を私としては知りたいなど。

マスクをして、どれくらい感染が防げているのかと、そういう検証が見当たらないんですよ。ただ、したほうがよか、したほうがよかと、何かそんな話が先行しているようで、科学的な根拠を示して、マスクをするべきだという論文とかは見当たらないんですよ。

どうしても学校現場としては、上からのお達しに背くようなことはできないということ、もう仕方ないのかもしれないですけども、どうしてもそこが私自身納得していないので、何でマスク、どんだけ効果があるのかと、誰も言ってくれてないんですよ、実際、正確には。

ということで、ちょっと次に行きますけれども、先ほどマスクの弊害ということで、コロナ禍で生まれた子供は認知能力の障害とか非常に表情が、感情表現ができなくなるとか、いろんな弊害が指摘されているんですけども、これやっぱ、もう2年以上になって検証が必要なんじゃないかと思うんですね。

なかなか認知能力とか、表情とか、コミュニケーション能力とかは比較ができないでしょうから、まずは学力として、コロナ禍が始まる前と今で、学力で悪影響が出ていないのかどうか。武雄独自でやるか、佐賀県でやるか、国でやるか、それはどうでもいいと思うんですけども、とにかくコロナ禍が始まる前と現在と、子供たちの学力にいわゆる悪影響が出ていないかという調査はされていますかね。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

コロナの影響によります学力についてでございますが、コロナの影響があるかどうかの検証は行っておりません。

ただし、学力については、全国学力学習状況調査を毎年しておりますので、その分で、市で分析を行っておりますけども、コロナ禍以前とコロナ禍での子供たちの、児童生徒の学力の変化は見られておりません。

また、文科省もコロナ以前とコロナ後の比較では、学力の低下の影響は見られないという



報告が出ているところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

今のところ、成績を見る限り悪影響は出ていないということで、まずは早くマスクを外して生活できるようになることを祈るばかりですけれども。

もう海外のほうはですね、なぜか日本だけといいますか、海外の情報を集めると、かなりもう通常に戻っているというところが多いようですので何とか、子供にもよるでしょうけれども、やっぱりもう、給食時間もですね、あまり楽しくしゃべれないとか、学校が楽しくないとかという保護者からの意見もありますし、何とか元に戻せるようになってほしいと思っております。

そういった中で、一つの取組の事例として、東京のほうですね、多摩市のホームページで、教育長のメッセージが4月7日付で出されております。

これもマスクに関してなんですけれども、ちょっと字が小さいですので、ここですね。

これは多摩市で、保護者の方もかなりそういうマスクの弊害とかを訴えて、積極的に動いていらっしゃるみたいなんですけれども、その結果として、教育長のメッセージとして、ホームページで、こういう文言というか、要は、「学校生活の中でのマスク着用につきましては、様々な事情により、マスクをしない子、できない子がおりますことも御理解いただきたいと思っております」ということで、一応、任意ということで、教育長の名前でこういうメッセージが出されております。

こういう、やはり正式にこういうメッセージを出してもらえるかどうかで、やはり子供たち、保護者の対応の仕方も変わってくると思うんですね。

逆に、外で遊んでいても、子供たちの、ちょっと聞いた話が、何人かで子供たちが遊んで、その子供たちはマスクをしていると。マスクをしない子が一緒に遊ぼうと言っても、マスクをしていないから一緒に遊ばないと。そういった、ちょっと、いじめじゃないですけども、子供たちは本当にそう思っているんでしょうけれど、やっぱり親から言われて、マスク大事だと言われて、していない子と遊ぶなと言われているかどうか分からないですけども、そういうことが実際に起こっているようなんですね。

そういった意味でも、教育長として、メッセージをこういう形で出すというわけにはいきませんかでしょうか。どうでしょうか。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘のマスクに関わるメッセージでございますけれども、先ほど申しましたように、

武雄市においては、国、県の方針に従ってマスクの着用を推奨しているところでございます。

コロナ禍が始まった頃に、コロナによる差別、あるいはマスクをしていないことに対する差別とか、そういった人権に関わるようなことについては、いじめに発展しないように各学校へ指導をしてまいりました。

そういったことで、そういった人権に関わるような、あるいはいじめに関わるような指導は今後とも続ける必要はございますけれども、多摩市さんのように、マスクに関わる、武雄市単独で通知文を出すとか、メッセージを流すというようなことは今のところ考えていないところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長 議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

なかなか難しいということですがけれども、とにかく、目的は子供たちの健全育成と。やはり情緒の発達とか、大人の感覚とはやっぱり違うというのを重々認識していただいて、発育の真っ最中で、ここ何年かで、やっぱり発育が遅れるともう取り戻せないというような指摘もありますし、細心の注意を払ってといたしますか、先生方もお忙しいとは思いますが、ぜひ注意を払っていただきたいなと思います。

あとですね、コロナ対策ということで、いろいろ質問の通告をした後も調査をしていて、非常に、これはマスクというよりもワクチンのほうなんですけれども、重要なというか、非常にショッキングな情報があったので、ちょっと御紹介だけしたいなと思っております。

先日、9月5日ですね、日野市議会のほうで、池田としえ議員が一般質問で取り上げられていたんですけれども、アメリカの疾病予防センターのCDCがコロナ対策の失敗を認めたということが、アメリカ、日本語のニュースでは出てきていませんけれども、ことを取り上げられております。そして、イギリスでは、もう5歳から11歳のワクチンの接種を中止したと。

それで、日本でも、各医療機関とかでは個別に、例えば札幌の禎心会病院とかは、もうワクチン接種は中止、4回目は中止を決定されております。これはもうワクチンそのものに欠陥があったと。

医療法人の八子クリニックさんですかね、これが非常に過激なメッセージなんですけれども、もう命の危険があるので打たないでくださいと、こういうことをホームページに書いたりもされております。

武雄市、行政としては政府の意向に沿った動きをするということになるのでしょうけれども、誰でも人間ですからね、政府の意向を決めているのも人間、専門家も人間、間違いはあるということで、より危険を避けるという意味で、こういう、非常に危険を、警鐘を鳴らしている方々のメッセージというのもしっかりと受け止めて、ただ言われたとおりにやるんじゃ

なくて、危険性についても独自に調査をするような動きをやっていただきたいと思います。

これについては通告はしておりませんでしたので、御紹介のみにとどめさせていただきます。

ということで、今回の私の質問はこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（吉川里己君）

以上で7番朝長議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩いたします。

休	憩	9時56分
再	開	10時4分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、5番江口議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、5番江口康成の一般質問を始めたいと思います。

東川登の10月の写真になりますけれども、町民で取り組んでおりますコスモス街道、10月の半ばに歩こう会を開催しております。まだ、花は、9月ですので咲いてない状況ではあるんですけども、10月になりますと、町内外からコスモス街道を見学に来ていただいております。

これは9月の最近の風景ですけれども、六角川は彼岸花が咲き始めました。また、この赤い彼岸花にあわせまして、9月23日、かもめ、西九州新幹線開業いたします。東川登でもこのかもめを上から見る場所がございます、開業を心待ちにしているというところであります。

私たち住民にとっては、日常の自然の風景にはなりますけれども、大都市から来られる方々にとっては、これが非日常の特別な景色となるわけであります。この自然豊かな武雄市へようこそという気持ちで、市民一丸となって迎える気持ちでこれから取り組んでいきたいと思っております。

今回の質問項目ですけれども、AEDについてと、そこから武雄市の都市計画マスタープランについてというところで、大きな4項目でもって進めてまいりたいと思います。

それでは、最初のAEDについてというところから入っていききたいと思いますけれども、AEDはですね、自動体外式除細動器ということで、除細動は、けいれんを取り除くという意味だそうで、電気ショックを与えて心臓が正常に動くようにする機械という形になります。

心臓がけいれんを起こして正常に血液を送り出すことができなくなっている状態のこ

ろに電気ショックを与えて、正常なポンプ、血液を送り出すリズムを戻してやるという、そういう医療機器にはなりません。

これはAEDですね。いろんな種類があるわけですけども。

このAEDですけども、武雄市が管理する公共施設のAEDの設置状況をまずお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

おはようございます。議員御質問の市の公共施設へのAEDの設置状況でございますが、現在、市の施設では、市役所庁舎の1階、そのほか学校、各町公民館、それから、スポーツ施設など36か所に設置している状況でございます。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

市内36施設に設置をされているということですけども、これですね、この武雄市が管理する公共施設でのAEDの設置場所の確認方法ですね、それと使い方、どこかで確認することができますでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

AEDの設置場所、それから、使い方についての確認方法でございますが、まず、市で公共施設に設置しておりますAEDにつきましては、武雄市が構築しております防災アプリ「たけぼう」、こちらの中に「そなえ」というタップを設けております。このタップをタッチしていただいてから、中のほうにAEDマップを掲載しておりますので、こちらで確認できることとなっております。

また、使い方に関しましては、AED本体にイラストで使用手順を示した説明書きと、使う際に、音声ガイダンス、こちらに沿って使用できるようになっております。そのほか、さらには、先ほども答弁いたしました、防災アプリ「たけぼう」の中に、「そなえ」のタップからAEDの使い方を学べるガイダンス動画を見ることができます。

日頃からの備えや、防災教育などでも御活用いただければと思います。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

防災アプリ「たけぼう」ですね、この中にですね、アプリを開きますと、——今、御説明

いただきましたけれども、——「そなえ」というところがありまして、その中に、「楽しくAEDを学ぼう」というところが出てまいります。そこから進んでいきますと、「AEDとは？」というところで説明が入りまして、また、「楽しくAEDを学ぼう！」と「心肺蘇生とAEDの使い方」ということで、動画でちゃんと確認できるようにこちらはなっているんですね。

動画のほうでは、武雄のヒーローおしくらマンが活躍をしておりますので、ぜひ見ていただければと思います。

このAEDですけども、本体と、また、附属品等、ずっところ、バッテリーであったり、あと、パッドであったりというところで附属品のほうがあるわけですけども、防災・減災課で管理されている分でのよいので、そのあたりの使用期限であり、状況の確認ですね、こちらのほうはできていますでしょうか、お尋ねをいたします。

**○議長（吉川里己君）**

諸岡総務部理事

**○諸岡総務部理事〔登壇〕**

防災・減災課のほうで管理しておりますAEDにつきましては、防災学習車に1基、それから、消防団の第2分団本部の救助資機材車、こちらに1基、合計2基のAEDを管理しておりますが、耐用年数につきましては、本体で7年、それから、本体に内蔵されておりますバッテリーで5年、それから、AEDを使用する際、体に装着する電極パッド、こちらが約2年となっております。

耐用年数で交換を実施している状況でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

命に関わる分ですので、いざというときに動かない、使えないとなると、これは非常に困るところですので、引き続き管理のほうをお願いしたいと思います。

先ほども市の公共施設のほう、36か所設置をしてあるというところでお聞きしましたけども、小中学校であったり、各町公民館等に設置してあるということですが、各町公民館ですね、こちらは建物の外に設置をしてあります。休日であったり、無人の状態でも、緊急時、AEDのほうをすぐに使用ができるというふうになっております。

こちら、次ですね、すみません、——ちょっと先ほどのAEDのマップのほうもちゃんと設置場所、確認をできるようになっています。東川登小学校、あと、東川登公民館、西川登小学校と西川登公民館、ここに、間にはないですけども、川登中学校にも設置をしてありますというところで、これ、東川登公民館のAEDですね。各町公民館は外にボックスのほうを壁に、玄関脇に取り付けてありまして、緊急時は取り出して使用することが可能になっております。

小中学校ですけれども、これ、建物の中にあるわけですけれども、——すみません、これ小中学校ですね。こちら、どちらに設置をしてありますか。

公民館は外ですけれども、小中学校のほうですね、そのほかの施設ですけれども、建物の中にあるのか、外にあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。議員お尋ねの件ですけれども、全ての小中学校においては、AEDは、体育館や職員室付近など屋内に設置しております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

小中学校については建物の中にあるということで、後ほど触れたいと思います。

文化会館になるんですけれども、こちらですね、中央公民館の入り口、勤労青少年ホームの棟になりますけれども、ここの入り口のところをですね、こちら、ステッカーが貼ってあります、AEDですね。駐車場側のところにステッカーが、これを貼ってあります。

これ、本体はじゃあどこにあるかといいますと、これは反対側、庭園側ですね。1階入り口を抜けて、事務所の受付を過ぎて、反対側の出口を出たところの右手に設置をしてあります。

これは日中は分かりやすいんですけれども、夜間ですね、皆さん車で来られると思うんですけれども、駐車場に車を止めます。AEDのステッカーを見つけました。じゃあAEDはどこにあるのかと探したときには見当たらないんですね。これはドアを開けて、受付を抜けた先にあるわけです。

これですね、非常に、夜間行ったときにはこれ、分かりにくいと思うんですけれども、駐車場側にやはり分かりやすいように、ステッカーがあるほうにこれを設置し直したほうがよいのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

文化会館のAEDは、文化会館が閉館中、閉まっているときであっても使用が可能なように、屋外にAEDを1台設置しております。

設置場所は、先ほど議員のほうが、写真、モニターのほうでお示しになりましたが、文化会館事務所と武雄公民館前の庭園側の出入口付近に設置しております。

現在のこの場所に設置しておりますのは、事務所窓口に近く、なおかつAEDは直射日

光や雨を避ける必要があるため、屋根がある現在の場所に設置しているところです。

AEDの設置場所が分かりにくいということにつきましては、文化会館は広く入り口も数か所ございますので、AEDの設置場所が分かりやすいように設置場所の案内表示を増やすなど、早急に対応したいと考えております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

案内表示をつけていただけるということで、非常にこれはもう人命に関わる分ですので、ぜひすぐに対処をしていただきたいと思います。

小中学校に関してですけれども、これは地元の東川登小学校で写真を撮らせていただきました。

先ほど説明にもありましたけれども、体育館の入り口のところにステッカーが貼ってありまして、本体は入り口を入った中に置いてあります。

これですね、緊急時は、人がいれば、鍵を開けてもらってという形でできるんですけども、学校がお休みの日であったり夜間、人がいないときでも、このAEDを取り出して使用する必要があるということですが、これ、じゃあ緊急時はガラスを割って、当然、中に入るという作業が必要になってまいります。

これが強化ガラスで体育館になっている場合は、ちゃんとその強化ガラスのところの表示がしてあって、1か所だけ強化ガラスになっていない場所をちゃんと設けてあります。

要は、緊急時、AEDが必要になったときには、そのガラスを割って中に入って、AEDを取り出して使用してくださいということなんですね。

強化ガラス、御存じのとおり、割ろうとしても、防犯上、砕け散らないんですね。こうクモの巣みたいにひびが入って中に入れないという強化ガラスの特性なんですけれども。

これをですね、強化ガラスになっているところはこのガラスを割ってくださいという表示が出ています。しかし、通常のガラスのところは、普通にAED設置施設というステッカーが貼ってあって、中にはAEDがあると。確かに緊急時にはあるんですけども、学校のガラスを割っていいのかなと、やっぱりちゅうちょする気持ちが、誰もが発生するかなと思うんですね。

これ、やはり通常ガラスのところでも、緊急時はここのガラスを割ってAEDを取り出してくださいとステッカーを1枚貼るだけで、緊急時、人命に関わるものですから、より早くAEDを取り出して使用可能になるんじゃないかと、気持ち的に思いますけれども、そのあたりいかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

**○秋月こども教育部長〔登壇〕**

全ての小学校については、先ほど申しましたように、室内のほうに設置をしております。休日や夜間など、学校自体が閉まっている場合、緊急時はAED設置場所近くのガラスを割って中に入らなければならない、これは議員おっしゃるとおりでございます。

人命に関わる緊急時に、公共施設を壊すというちゅうちょより人命優先という考えを促すためには、議員がおっしゃる貼り紙は非常に有効な手段と考えております。早急に対応したいと思います。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

早急に対応してもらえるということで、やはりこれ、AEDを必要とする場合、時間が勝負です。とにかく、すぐにでもAEDを取り出して、倒れた方に処置を施すというところが必要になってまいります。

AEDも判断機能がありまして、AEDが必要ないと判断した場合には機械からちゃんと判断の音声が出るようになっているんですね。必要なときにはAEDを、処置を行いますという形で音声案内もしてもらおうように今はなっておりますので。

これ、やっぱり命に関わる事でありますので、将来的にはこの武雄市の管理する公共施設において、AEDが外に、全て外に、取り出しやすいところに設置していただけることを願いながら、次の質問に入っていきたいと思います。

大項目2番目の公共施設の駐車場についてというところで、幾つか駐車場の件を言及してまいりたいと思います。

まず、天神崎テニスコートですね。こちらの定員、利用される方の定員と現在の駐車場の台数からお伺いをいたします。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

天神崎テニスコートの、まずは駐車場台数については7台でございます。それから、定員ということでございましたが、定員と申しますより、利用者数につきまして、日ごとには把握しておりませんが、月平均約1,000人ほど利用されている状況でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

駐車台数7台と、月1,000人ですね。かなり、ここ、まちなかでもありますし、利用者は多いですね。テニスコート、駐車場を、私も週に1回、送迎をしているんですけれども、7



台ではやはり足りない。

写真を見ていただくと、もう、ここは常に利用者で、もう車、いっぱいでございます。路上駐車は御遠慮くださいという看板もあるとおり、近隣からも苦情のほうが出ているんですね。

ここのテニスコートの駐車場の南側にちょっと広めの歩道があるんですけども、ここ車止めたら、止めれるようにしたらどうなんだという話も聞いたりはするんですけども、ここは水路になっておりまして、車が乗るような荷重、耐えられないということで、ここはもうあくまでも歩行者であったり、自転車の通行のみという形になっているということだそうです。

じゃあ、どこか駐車場を広げる余地はないのかというところで、テニスコートのすぐ南側に天神崎公園があります。ここ、都市計画公園になるんですけども、かなり広い敷地になっております。

ここ、西側からは、西側と南側は水路が走っておりまして、ここは車がちょっと横断しにくいかなというところですけども、東側に回り込むと、道路に面しまして作業用の車が入れるようにスロープもできております。

ここの遊具は、ずっとこの奥のほうにテニスコートのトイレがあるんですけども、西側のところに遊具がちょこっと置いてあるという状況ですね。

ここ、公園の右側もテニスコートとずっと接地、続いている敷地がありまして、ここから入りまして、この東側のところから入って奥のほうまで行きますと、テニスコートのすぐ南側にあるトイレにすぐたどり着いて、そこを北に上がっていくと受付があると。入り口へのアプローチもできるんじゃないかと思います。

ここの部分を駐車場にという形で、誘導路と、奥のほうに駐車場をという形で設けたら大分、駐車場不足も解消できるんじゃないかとは思うんですけども、このあたりいかがでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

ただいま議員のほうから、公園の一部を駐車場に利用できないかという御提案をいただきましたが、なかなか、造成費用の課題だとか、また、テニスコート移転についての御意見等もいろいろ承っております。

今後につきましては、公共施設等個別施設計画の視点からも十分な検討をしてまいりたいと存じます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

この天神崎公園ですけれども、後ほど公園のところでも触れますので、次に行きたいと思えます。

公共施設の駐車場ということで、2番目は市民球場ですね。

今年オープンいたしましたひげしんスタジアム、ここの座席数、収容人数、それと、駐車場台数をお尋ねいたします。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

武雄市民球場につきましては、車両につきましては、一般車両124台、大型バス5台分を整備しております。また、メインスタンド2階に420席の観覧席を設けております。

以上でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

普通車で124台、大型車、大型バスですね、これ5台と、席数が今、420席ということですけれども。

私が行った日、2チームで試合が行われておりました。駐車場の具合、どんなかなという形で見ただすけれども、2チームの対戦で、7割方もう駐車場が埋まっております。今回、2チームで済んでいるんですけれども、仮にこれ、4チーム集まることもあると思うんですね。4チームの選手と、また、家族の観戦の方が来た場合に、この駐車場では収らんないというふうにやっぱり思います。

これ、試合のときもそうですけれども、ここでイベントも先々行われると思います。

これ、東川登町のイベントを、7月にこけら落としでやろうとして、コロナで延期にはなっとるんですけれども、そのときに、子どもクラブで車の把握、台数把握をするために、皆さんにお願いをしたんですけれども、いや、このコロナの時期に乗り合わせで来んばとやという形で、かなり苦情が出ました。

これですね、やはり駐車場は、ここまだ広げられる余地があります。どうしても、まちなかでもう広げる余地がないという状況であれば仕方ないかなとは思いますが、まだスペースの確保をすれば、しっかり線を引いてやっていけば、まだ広げる場所は、余地はあると思いますけれども、これ、いろんな利用者の方から苦情の声が出る前に、早めに広げるという手を打つべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

市民球場のオープン以来、市民の皆様方や、最近では大学野球、それから、高校野球の試合などでも多くの方々に御利用いただいております。

直近では、1時間当たり最大150名、それから、駐車台数で1時間当たり最大123名という数字は把握しているところでございます。

ただ、こういう状況の中で、駐車場不足というのは正直感じておりませんので、今の段階で拡充の計画はございません。

ただ、今後、大会等の利用状況を注視しながら、駐車場不足が慢性化するような状況とか常駐化するようなことがあれば、当然、検討する必要はあるかというふうに考えております。

なお、大規模な大会やイベントなどが開催された際につきましては、輸送計画等を策定するなど、主催者側と協議をしてみたいと存じます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

私が行ったこの日も、県外ナンバー、結構、止まっておりました。ここですね、管理棟に行ってホワイトボードのほうを見せていただきましたけれども、ぎっちり詰まっております。かなりたくさんの方に今、利用していただいているということが実感できました。

ここはもう、利用者もこれからもずっと多い状態が続くと思われまますので、早めの対処をぜひこれはお願いをしたいと思います。

3番目の新体育館について触れてまいりたいと思っておりますけれども、現在、ひげしんスタジアムのほうに球場のほうに移りましたけれども、その白岩球場の跡地に武雄市の新しい体育館が今、建設中でございます。

大分、形ができてまいりまして、周辺からも見られるようになってきたんですけども、ここの新体育館の収容人数と座席数、また、駐車場の台数をお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

新体育館でございますけど、まずもって、基本計画におきまして、日常的な利用に対する駐車台数といたしまして、100台と想定し計画しておりました。

その後、様々な御意見を踏まえまして50台分を追加し、一般車両150台、マイクロバス3台分を整備することとしております。

以上でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

当初100台、普通車の計画を150台に増やしていただいていると。ここは私も総務委員会におりましたので、そのときに確認をしているところでもありますけれども。

ここも、もう今、計画に沿ってしてあると思うんですけれども、ここもまだ駐車場を広げる余地はたくさんあります。広々とした敷地があるというところで、無理なく広げられるのかなとは思いますが。

ここも席数に対しての台数ですね、足りないと思うんですね。体育館の場合は、球場以上に多目的に利用されることが多いというふうに判断をいたします。

このコロナ禍の中、やはり家族以外と乗り合わせで来ることはなかなか難しいという状況は続くと思いますので、駐車場を広く取っていただくように検討をしていただきたく思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

庭木企画部長

**○庭木企画部長〔登壇〕**

先ほど申しましたとおり、日常的な利用ということで150台ということで考えておりますので、現段階において拡幅の、これ以上の拡充の計画はございませんが、今後とも、来年のオープン後の利用状況を踏まえながら、安全面も注視してまいりたいと考えております。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

新体育館においては、今、予算が組まれて、それに沿って工事が進められているわけですから、すぐには無理だということは私も分かります。

ただ、この駐車場が狭いという声は当然出てくると思われまますので、このあたり、準備、検討のほうをしておいていただきたいというふうに思います。

4番目、文化会館と新勤労青少年ホームについて触れてまいりたいと思いますが、この駐車場の部分では最後になりますけれども。

文化会館大ホール、これは既存、そのまま残しまして、残りの部分を建て替えるということで、こちらは今、その基本計画ということですが、ここ、駐車場は、今の文化会館、勤労青少年ホーム、もうとにかく駐車場が足りないという声はたくさん出ております。

新しい計画におきまして、駐車場が十分に確保されるかどうかのお伺いをいたします。

**○議長（吉川里己君）**

諸岡こども教育部理事

**○諸岡こども教育部理事〔登壇〕**

文化会館の駐車場台数でございますが、現在は全体で約300台となっております。

今後につきましては、今年度、新文化施設エリアについて基本計画を策定してまいります  
が、その中で駐車場についても検討してまいります。

○議長（吉川里己君）

5 番江口議員

○5 番（江口康成君）〔登壇〕

現在の勤労青少年ホームの駐車場が少ないという声は、現在の利用者の皆さんから出ていることはもうお分かりだと思いますので、大ホールとの連動も考えていただいて、しっかり計画をつくっていただきたいというふうに思います。

それでは、3 番目の業務委託について入りたいと思いますけども、市役所の業務におきまして、各業務においていろんな形で業務委託のほうが行われていると思いますけれども、その効果と目的についてお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

藤井財政課長

○藤井財政課長〔登壇〕

おはようございます。委託の目的と成果についてでございますが、建設工事関連業務、いわゆる測量設計や施工管理、地質調査や橋梁点検といった委託になりますが、これについては、特殊な技術や設備等を必要とすることや高度の専門的な知識を必要とすることなどから、市が直接実施するよりも委託して実施することのほうが効率的であり、成果を得ることができるというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

5 番江口議員

○5 番（江口康成君）〔登壇〕

市の職員さんではできないような専門的知識や技術、そして、設備を必要とするということとで効果を発揮しているということですのでけれども、これ年間、何件ぐらい行われているんでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

藤井財政課長

○藤井財政課長〔登壇〕

件数についてでございますが、これも建設関連工事業務の場合でございますが、令和4年4月から8月末までに財政課で行いました入札の件数は61件でございます。

○議長（吉川里己君）

5 番江口議員

○5 番（江口康成君）〔登壇〕

年間 61 件入札が行われているということですのでけれども、数多くの業務委託が行われてい

る中で問題等は起きていませんでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（吉川里己君）

藤井財政課長

○藤井財政課長〔登壇〕

入札前におきましては、仕様書による委託内容の明確化をしております。また、発注後におきましても、事業者のほうと協議をしておりますので、問題等はないと考えております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

業務委託されている内容がきちんと施工されているかどうかの部分ですね、これチェックの体制ですね、こちらしていると思いますけれども、そちら、しっかりされていますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

藤井財政課長

○藤井財政課長〔登壇〕

チェック体制についてでございますが、業務の実施中におきましては、発注担当者と受注者による、打合せ簿による打合せ等を実施しております。

また、業務完了後につきましては、契約検査官による検査を実施しているため、十分チェックはできているものと考えております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

業務委託先ですね、これをプロポーザルで決められている分について公正公平な選定をしなければならぬというふうに思いますけれども、そのあたりはちゃんとできていますでしょうか、お伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

藤井財政課長

○藤井財政課長〔登壇〕

プロポーザルの件についてでございますが、令和4年4月1日に、武雄市工事等の契約に係るプロポーザル方式実施要綱の一部改正を行っております。その中の第4条でございますが、実施要領の作成の中で、モニタリングに関する事項を追加いたしております。

このことから、発注後のチェック体制につきましても強化されたものと考えております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

大きな問題になりましたふるさと納税の業務委託ですね、これに関しては市の側のチェックが行き届いていなかったと、これが問題になっております。

そういう問題が二度と起きないように、あらゆる業務委託に関してしっかりチェックをしていただいて、委託業者に任せっ放しにするのではなく、しっかりと目を光らせていただきたいというふうに思います。

では、4番目の最後の項目、武雄市の都市計画マスタープランについて入っていきたいと思います。

今年3月に、武雄市都市計画マスタープランが冊子になって発行されました。2022年から2041年の20年間にわたり、これからのまちづくりの基本となっていく計画であります。

この中から3つの項目についてお尋ねをしていきたいと思います。まず、公園についてということで、こちら都市公園ですね、12施設あり、全てが整備済となっていますというふうに記述してあります。

市役所に一番近い一番小さい一の坪公園からですかね、一番広い白岩運動公園までが整備されているわけですが、これは地震の際に避難場所としての機能を求められていると分かっているんですけども、やはり公園となると、まちなかにやっぱり近いところで、遊具が充実した公園が欲しいなという声が聞こえてきております。

小さな子供連れで、散歩程度で歩いて行ける範囲で複合型の遊具が欲しいという市民からの声が届いておりますけれども、既存のこの公園ですね、既存の公園の遊具の充実についてお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

山口環境部長

**○山口環境部長〔登壇〕**

市役所周辺の公園でございますが、天神崎公園、一の坪公園、武雄児童遊園、——これは通常S L公園と呼んでおりますが、——これらの公園があり、ブランコや滑り台、スプリング遊具等を設置しております。

遊具は毎年点検を行い、適宜修理を行っております。また、新たに遊具を設置する予定はございません。

今後も適切な維持管理を行いながら、既存遊具を維持していくという予定でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

設置の予定はないということですが、隣町の嬉野ですね、みゆき公園なんですけれども、複合型のこの遊具、これがあるんですけれども、日曜日に行きますと、もう家族連れ

いっぱいですね。ちょっと写真を撮るのもすぐには撮れない状況で、かなりにぎわっているというところでもありますけれども。

確かに、山内中央公園ですね、あと、四季の丘公園があるじゃないかと言われますけれども、まちなかに住んでいる方、歩いて行けるところにこういう遊具があればなどというのはもう多々声が届いておるところであります。

先ほど駐車場の件で触れました天神崎公園でもよいです。かなり広い敷地ですので、ここですね、複合型遊具が置けるんじゃないかというふうに思います。また、ここ、駐車場も整備することで、前に触れましたテニスコートの駐車場ですね、このあたりもカバーできるんじゃないかというふうに思います。

まちなかで、家族連れ、親子連れが歩いていける範囲で楽しめる複合型遊具ですね、あればいいと思うんですけども、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

武雄町内には、ほかにも遊具を設置した公園が多数ございます。まちなかにおいて新たに公園を整備する計画はございません。

また、最近の整備状況でございますが、武雄温泉駅北側に位置します丸山公園では、展望台の修繕や遊具の修繕、樹木の伐採等を行い、西九州新幹線を望める公園として魅力アップを図ったところでございます。

今後、今あるものを生かしながら維持管理し、公園の魅力や利便性の向上を図り充実させていきたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

5番江口議員

○5番（江口康成君）〔登壇〕

やっぱりまちの中心部に、歩いて行ける範囲に複合型遊具があると、これ、買物に行くついでに子供を遊ばせたり、なかなかいいんじゃないかというふうに私は思いますので、これもぜひ検討をしていただきたいと思います。

次、ゴミの削減についてということでまいりたいと思いますけれども。

今、国の方針で、より細かい分別をしてごみを出すことで再資源化ですね、これを進めるような方向性になっていると思います。

現在の武雄市のごみ収集の分別方法と、国が求める方向性が合っているのかどうか、まずお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長



**○山口環境部長〔登壇〕**

さが西部クリーンセンターで、熱回収による発電、いわゆるサーマルリサイクルに転換することで、平成30年3月をもって、プラ分別を廃止したところでございます。

議員御質問の、国の方針に合っているのかという御質問でございますが、プラスチック資源循環促進法が今年4月1日に施行され、国が示した全プラスチックの再資源化の方針とは合っていないという状況でございます。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

今、答弁いただきましたけども、以前は武雄市でも、プラスチックマークのついたものは分別をして出していたんですね。

これは、一度なくしたものを再度お願いするのはなかなか難しいと思いますけれども、この国の基準に従いまして、もう一度、改めて取り組む必要があるのではないかと思います、いかがでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

山口環境部長

**○山口環境部長〔登壇〕**

プラスチック分別の再開ということでございますが、現在、佐賀県西部広域環境組合の構成市町の中でも、共通の課題として今後の対応の協議を行っているところでございます。

なお、回収方法や再利用の方法等、仕組みづくりに課題があるため、協議を進めながら有効な方法を探りたいと考えております。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

これは、やはり今の時代の流れに沿って対処をしていく必要があると思いますので、取り組んでいただきたいというふうに思います。

現在、生ごみや植木の剪定くず、これは可燃物のごみの袋に入れて出していると思うんですけども、これ、ほかの自治体では、こちら、生ごみのほうを牛ふんと混ぜて堆肥化したり、剪定くず、これを肥料化したりする取組を行っているところがあります。

販売ルートまで構築するのはなかなか難しいと思いますので、例えば取りに来た人に無料で渡すというような形で工夫すれば、再資源化、ごみではなくて資源として再資源化ができるんじゃないかというふうに思います。再資源化のサイクルですね、これがつくれるんじゃないかと。

こちら、生ごみを燃やすのに焼却設備ですね、かなりの負担をかけていると言われており

ますけれども、この再資源化の取組はいかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

生ごみと剪定くずの堆肥化、再資源化ということでございますが、現在取り組んでおります自治体の状況を調査研究し、武雄市において導入可能かどうか、まず検討したいと思えます。

○議長（吉川里己君）

5 番江口議員

○5 番（江口康成君）〔登壇〕

生ごみの回収となると、なかなかクリアすべき問題が多いかなというふうに思います。

植木の剪定くずの肥料化など、できる部分からでよいですので、ほか自治体でも取り組んでおられますので、これはぜひ検討をしていただきたいというふうに思います。

それでは、最後の項目、小項目になりますけれども、治水・減災について触れていきたいと思えます。

武雄市では令和元年、そして3年と、令和に入り2回の、直近では2回の水害被害があつてわけですけれども、被災された方向けに住宅のかさ上げ、あと、移転費用の補助をされていると思うんですけれども、これについて詳細を教えてください。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

議員御質問の事業につきましては、武雄市水に強い住まいづくり支援事業というのがありまして、昨年10月から制度化し、住宅の改修補助と移転補助の内容で支援を行っております。

住宅の改修補助では、敷地の盛土、基礎のかさ上げ工事、また、給湯器等の高所移設を行う浸水被害軽減対策工事に対し費用の2分の1を補助し、上限額が100万円となっております。

また、現在の場所での対策が困難な場合に、住宅の移転補助を設け、町内や市内へ移転し、住宅の建設や購入に要する費用及びそれに伴う被災住宅の解体も補助対象としており、費用の2分の1を補助し、最大250万円までが上限額となっております。

申請件数につきましては、今年の8月末までに、かさ上げ工事が18件、浸水軽減対策工事が66件、住宅移転が16件の合計100件の申請があつており、全体の交付額は5,001万9,000円となっております。

○議長（吉川里己君）

5 番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

水に強い住まいづくり支援事業、住宅改修と住宅移転ということで、今、金額のほうを出していただきました。

武雄市の新・創造的復興プランのほうですけれども、これですね、現在進められている国、県、市の事業が完成しても、ここに、床上浸水ゼロが難しいということが分かっております。先ほど出していただきましたけれども、その補助金ではなかなか厳しい、難しいという市民からの声も多く出ております。

地球温暖化が進んで、海水面の上昇であったり、降雨の短時間集中型になるなど、これから先、さらに気候が変化してきて災害が発生しやすくなるんじゃないか、その可能性が高くなっていくんじゃないかというふうに思われます。

六角川とその支流域ですね、存在をしております武雄市にとって、これは水害の被害を受けにくい場所への住民の移転であったり、店舗のかさ上げ等を、50年ぐらいの長期計画でしっかり取り組んでいく必要があると思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

野口まちづくり部長

**○野口まちづくり部長〔登壇〕**

現在の制度に対する補助金についての見直しということですが、現在、まだ多くの浸水に関する相談を受けている状況でありまして、補助金額の見直しについては考えておりません。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

みんなが安心して住めるまちを実現するには、かなり先を見据えた長期的な計画が必要だと思います。

市長、このあたりどのようにお考えでしょうか。

**○議長（吉川里己君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

床上浸水ゼロを目指して、まずは治水対策をとにかく積極的に、懸命にやっていかなければならないと。これはまず大前提です。

併せて、やはり命を守るだけではなくて、特に令和3年の水害のときには、暮らしを守る、住まいを守るということで、もうこれは本当に痛感をしました。

住まいについては、国、県の補助がやっぱり非常に手薄な中で、市独自で、上限250万ですけれども、制度を定めたりしたところでありまして、また、この議会でも答弁しましたけ

れども、一定の規制と、でも暮らしを守っていくことを両立させる特定都市河川の指定というのをぜひ目指していきたいというような話も答弁をさせていただきました。

要は、治水対策だけではなくて、水と共に暮らすまちづくりを、言わば都市計画ですね、ここをやはり両輪として進めていかなければならないと思っています。

現在、都市計画マスタープランの1個高度バージョンのような形で立地適正化計画を作成をしまして、言わば、やっぱり水害のリスクが低いところへの長期的な緩やかな誘導というのは図っていくべきだろうというふうに思っております、現在、作成をしております。

いずれにしても、治水対策と長期的な都市計画を含めた水と共に生きるまちづくりというところを同時並行で進めていって、できるだけ早く床上浸水ゼロというのを達成していきたいと考えております。

**○議長（吉川里己君）**

5番江口議員

**○5番（江口康成君）〔登壇〕**

今、市長のほうから、水と共に暮らすまちづくりという言葉をいただきました。

これ、もう武雄市にとって、本当にもう、長期かつしっかりと取り組んでいかなければならない部分になっているというふうに思います。

安心してみんなが住めるまちの実現を目指して、私たちもしっかりと取り組んでいきたいと思う気持ちを伝えながら、5番江口康成の一般質問を終わります。

**○議長（吉川里己君）**

以上で5番江口議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備の都合のため、5分程度休憩をいたします。

休	憩	10時59分
再	開	11時6分

**○議長（吉川里己君）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、4番中山議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番中山議員

**○4番（中山 稔君）〔登壇〕**

（全般モニター使用）皆様こんにちは。ただいま議長から登壇の許可を得ましたので、4番中山稔が最終の一般質問者として一般質問をさせていただきます。どうぞ最後までよろしく申し上げます。

一般質問は3つありまして、1題目が子宮頸がん検診と子宮頸がんワクチンの接種について。

2番が、武雄市ごみ分別と、新法であります「プラスチック資源循環促進法」について。

3番目が、武雄市の定住・移住政策と子育て支援について質問させていただきます。

まずは、1番目の質問になります。

子宮頸がん検診と子宮頸がんワクチンの接種についてということになります。

女性特有のがんの1つになりますが、20代から30代の若い女性に気をつけていただきたいがんが、子宮頸がんになります。

それでは、最初の質問、武雄市で実施している子宮頸がん検診についてお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

松尾福祉部長

**○松尾福祉部長〔登壇〕**

モニターお願いします。

（モニター使用）子宮頸がん検診につきましては、20歳以上の女性の方を対象に、集団検診と個別検診を実施しており、集団検診は文化会館、山内保健センター、北方公民館の3会場で実施、個別検診は県内の全ての産婦人科で受診することができます。

自己負担額につきましては、集団検診1,000円、個別検診2,000円となっております。

**○議長（吉川里己君）**

4番中山議員

**○4番（中山 稔君）〔登壇〕**

個別検診では、県内全ての産婦人科で受診できるということで、自分がお産したところでも検診が可能ということで、選択枠は大分広がっているということで安心いたしました。

スライドをお願いします。

こちらは、佐賀県におけるがん罹患の状況ということで、平成30年ですね、男性です。大腸、肺、膀胱、皮膚、食道の順になっております。女性を見ますと、女性は乳、大腸、子宮、肺、皮膚、膀胱、食道の順になっています。

佐賀県における75歳未満の年齢調整死亡率ということで、全がんと乳がん、子宮だけはちょっと取り上げておりますけど、佐賀県全国10位ということで全がんは10位ですね、死亡率ですから悪いほうというふうに思ってください。乳がんは13位、子宮がんは6位ということになります。

今回は、この子宮がんの中の一つの子宮頸がんについて、ちょっと注目してみたいと思います。

こちらの表ですね、グラフは、こちらのブルーのやつが子宮頸がんの罹患率。こちらだいたいこのほうは、子宮体がんの罹患率ということになっております。

年齢的に見てもらうと、ここのピンクのゾーンですね、子宮頸がんのほうは若年化っっちゃうかですね、体がんよりは、若い25歳から29歳と、45から49歳の間ですね。20代後半から40代後半にかけては罹患率が高いことが分かります。

死亡率に関しても見ていただきたいと思います。

こちらは頸がん、こちらが体がんですけど、こちらもやはり罹患率が高い分、死亡率も若い年代のほうで高くなっていることが分かります。そういうところで、この若い年代ですね、早めの子宮頸がん検診をお勧めしたいというふうに思います。

このグラフは、女性特有のがんの発症率の推移ということで、日本人の20代から30代の女性ということになります。2010年ぐらいからですね、子宮頸がんの罹患率がどんどんどんどん上がっていることが分かります。

こちらは乳がんですね。こちらは子宮体がん。卵巣がんに比べて、子宮頸がんが非常に発症率が高いということが分かります。

ほとんどの女性がですね、ごめんなさい。このところは、発がん性HPV感染とがん細胞の変化ということになります。

ほとんどの女性が、一生に一度は罹患するというふうに言われています。しかし、多くの場合ですね、自然に治癒すると。自分の免疫力で自然に治癒するということ言われています。一部の感染が持続しますが、こちらの段階からのがん細胞へ移るとするのは約10%の方というふうに言われていますので、この前がん病変のところできちんと治療すれば、がんに進まないということが言われると思います。

子宮がん検診というのは一般的にどういうものかという、子宮頸がんですね。これは細胞診の検査であります。顕微鏡でがん細胞を見つける検査ということになります。

もう一つのHPV検査というのは、PCR検査、遺伝子検査ですね。これはどういう検査なのかというと、HPVに感染しているかないかを調べる検査ということになります。

一度お見せした表ですけど、ここですね。平成27年からR1年まで、こちらの平均が、子宮がんに関しては全国ワースト6位、ワーストのほうですね、6位ということになります。

佐賀県が実施している補助事業、こういうふうな子宮がんがワースト6位ということになっていますから、佐賀県が実施している補助事業は何かあるかお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

先ほど議員御説明されましたように、佐賀県は子宮がんの死亡率がワーストレベルであることから、県における助成制度が令和元年度から導入されており、今年度まで30歳から44歳までの方がHPV検査を無料で追加接種、追加受診することができます。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

ありがとうございます。

HPV検査は今年度までは無料ということですね、まだ受けていらっしゃらない方には、ぜひ受診勧奨をお願いしたいと思います。来年からは、ひょっとしたら個人負担金がかかるようになるかもしれませんので、ぜひ受けていただきたいというふうに思います。

では、現在実施してある子宮頸がん検診とHPV検査を併用する場合の有用性についてお尋ねします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）これは、細胞診検査とHPV検査を併用する場合のメリットを示しております。細胞診検査のみでは、がんになる前の細胞の発見率は70%ですが、HPV検査を併用することで、ほぼ100%まで発見率を向上することができます。

また、HPV検査は細胞診検査で採取した検体の残りを使用するため、1回の検査で済み、受診者の負担を増やすことなく検査が可能となっております。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

ありがとうございます。

このところですね。同じ残りの検体で検査が可能ということで、受診者の負担がないということになりますので、ぜひ併用して受けていただきたいというふうに思います。

それでは、子宮頸がん検診とHPV検査の併用を受診した場合の、その結果からの流れをお伺いします。

○議長（吉川里己君）

松尾福祉部長

○松尾福祉部長〔登壇〕

（モニター使用）このフロー図は、細胞診検査とHPV検査の両方を受診した場合の結果によって、次の受診がいつになるかを示したものであります。

両方陰性の場合、次の受診は3年後となり、細胞診検査が陰性でHPV検査が陽性の場合と、細胞診検査が偽陽性でHPV検査が陰性の場合は1年後の受診、また、細胞診検査が偽陽性でHPV検査が陽性の場合と、細胞診検査が陽性となった場合は精密検査となり、すぐに医療機関での受診が必要となります。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

細胞診検査とHPV検査を両方併用して受けて、両方とも陰性の場合は3年後受診ということだから、2年間安心できるということになりますので、ぜひ併用検診を受けていただきたいというふうに思います。

スライドをお願いします。

こちらは、8月1日の佐賀新聞の掲載記事になります。

佐賀大学、横山教授らが佐賀市で調査をされました。20歳から24歳の接種者の病変発生率が低いということが分かったということで、子宮頸がんワクチンの効果が確認されたと、佐賀県でも確認されたというふうにされています。

それでは、子宮頸がんワクチンの接種の経緯についてお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

後藤福祉部理事

**○後藤福祉部理事〔登壇〕**

モニターお願いいたします。

（モニター使用）議員御質問の子宮頸がんのワクチン予防接種のこれまでの経過でございます。

平成25年4月から、予防接種法に基づきまして定期の予防接種となったところでございます。しかし、ワクチン接種後に持続的な痛みが見られたことなどから、同じ年の6月に積極的な勧奨を控えることになっておりました。その後、疫学調査が行われまして、ワクチンの安全性について確認がなされたため、令和4年、本年4月から予防接種の積極的勧奨が再開されたという状況でございます。

**○議長（吉川里己君）**

4番中山議員

**○4番（中山 稔君）〔登壇〕**

せっかく積極的な勧奨を始めたばかりなんですけど、すぐに一時控えて、9年間の検証を経て、今年4月に再開されたということが分かりました。

それでは、子宮頸がんワクチンで感染を防ぐことができる子宮頸がんの高リスク型はHPV16型と18型と聞いておりますが、どのタイプのワクチンを接種されてあるか、また、その副反応についてもお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

後藤福祉部理事

**○後藤福祉部理事〔登壇〕**

（モニター使用）議員御質問の子宮頸がんワクチンのタイプについてでございますけど、現在、公費で行っておりますのは、2価と4価の2種類がございます。

2価のワクチンにつきましては、ヒトパピローマウイルス、HPVと言われておりますけ



ど、HPVの16型と18型の感染を予防するワクチンでございます。

4価のワクチンにつきましては、先ほどの16型と18型、そのほかに、6型と11型のウイルスの感染を予防するものも加えられているワクチンでございます。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

副作用についてもお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部理事

○後藤福祉部理事〔登壇〕

（モニター使用）失礼しました。

ワクチン接種後に見られます主な副反応としまして、10%以上の頻度で注射部位の痛みや赤み、腫れ、筋肉痛、関節痛などが見られております。

2価と4価のワクチンの種類により、副反応の発生頻度はまちまちでございますが、どちらの予防接種を受けても効果はあり、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると言われていたところでございます。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

高リスク型のHPVは2価と4価にも両方入っているということと、副反応については、10%以上のこういうふうな症状があるということは理解しました。

それでは、積極的勧奨を中断していた時期の方への勧奨はどのように実施してあるかお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部理事

○後藤福祉部理事〔登壇〕

予防接種の積極的勧奨が控えられた、先ほどの約9年間の期間の接種対象者でございます平成9年度から平成17年度生まれまでの女子につきましては、本年度、令和4年度から6年度までの3年間に経過措置としまして、ワクチン接種が公費で、自己負担なしで受けられるというふうにしております。

本年6月の市報に、ワクチン接種再開の掲載を行っております。

また、接種の対象者につきましては、3回の予防接種を、個別接種で医療機関に予約をして接種をしていただくよう、直接通知を行っているところでございます。あわせて、副反応につきましても、資料を紹介するなど、不安なくワクチン接種をしていただくように周知に

努めているところでございます。

**○議長（吉川里己君）**

4 番中山議員

**○4 番（中山 稔君）〔登壇〕**

平成9年度から17年度の生まれの方は、現在、17歳から25歳になられております。ワクチンの有用性と副反応の内容がよく理解していただけるように、周知をお願いします。そして、子宮頸がんの予防と検診の受診率が上がることで、若い世代の子宮頸がん罹患率が低下することを期待します。

次の質問に入ります。スライドをお願いします。

武雄市ごみ分別と新法「プラスチック資源循環促進法」についてになります。

今年4月、新法「プラスチック資源循環促進法」が施行されました。この背景には、海洋プラスチックによる海洋汚染が世界的な話題になっていること、地球温暖化の問題、また、アジア各国でプラスチック廃棄物の輸入規制が強化されていることがあると思われま

す。また、1人当たりの使い捨てプラスチックごみの量が世界で2番目に多かったことから、2年前の令和2年7月にスタートしたレジ袋の有料化は、記憶に新しい取組の一つです。

このスライドは、新法の目的をまとめた表です。今までのリサイクルですね、ごみの発生を減らす、繰り返して使う、資源として再び利用する、それに新しく、再生可能資源に替えましようということが目的というふうになっております。

もう一つ、こちらですね。回収とリサイクル時の取組について市区町村に求められているのは、プラスチック製品の分別収集・再生品化の促進ということになっております。

これを図で表すと、左のほうのリニアエコノミー、線型経済方式と言われてはいますが、原材料から製品、利用しますが、最終的に廃棄物が発生します。そして、この廃棄物を処理するために、最後の処理場が必要ということになります。

それを右側のサーキュラーエコノミー、循環経済型にして製品を利用する、そして、リサイクルする、そして、それをさらに原材料としてもう一度製品にすると。こちらのほうを今回の法は求められております。

平成18年に1市2町が合併しました。その後のプラスチック分別の取組について、これまでの経緯をお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

山口環境部長

**○山口環境部長〔登壇〕**

これまでのプラスチック分別の経緯ということでございますが、武雄市合併以前の旧北方町においては、全プラスチックを対象として回収を実施してはいたしましたが、平成20年6月から全市において、容器包装プラスチックを対象として指定袋による回収を始めております。

その後、平成 28 年 1 月供用開始しましたさが西部クリーンセンターにおいて、熱回収で発電するサーマルリサイクルへ転換するというので、平成 30 年 3 月をもってプラ分別を廃止したところでございます。

○議長（吉川里己君）

4 番中山議員

○4 番（中山 稔君）〔登壇〕

一つ前の江口議員と少しかぶっているところがありますが、平成 30 年 4 月にごみ分別の方法を統一されたということで、燃えるごみをサーマルリサイクル方式に変更されたということですね。そして、このときのサーマルリサイクルというのは、そのときに発生する熱エネルギーを回収して発電をして、そして、余剰電力は売電されるということだというふうに思います。

それでは、さが西部クリーンセンターを利用されている 4 市 5 町のプラスチック分別の取組についてお伺いします。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

構成市町の分別状況でございますが、サーマルリサイクルの市町が 4 市町、容器包装プラスチックのみ回収が 4 市町、全プラスチック回収が 1 市となっております。

○議長（吉川里己君）

4 番中山議員

○4 番（中山 稔君）〔登壇〕

さが西部クリーンセンターを利用されている 4 市 5 町のプラスチック分別については、まだ統一されていないと。法に基づいて取り扱っている市町も 1 自治体あるということですけど、まだまだ統一化はされていないということが分かりました。これから新法に基づいて話し合いを進めていっていただきたいというふうに思います。

こちらは武雄市ごみ分別ハンドブックということで、山内町・北方町版より拾いました。

ペットボトルですね。中をすすいできれいにしてください。ぺっちゃんこに潰さないでください。

缶類も同じですね。中をすすいできれいにしてください。潰さないで出してくださいというふうな注意書きがありますけど、この注意書きについて、その理由をお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

再商品化の精度を上げるため、中に異物が混入しないよう、水洗いして出させていただくこ

とをお願いしております。また、搬出の効率化を図るため、機械で圧縮し、ベールという塊を造りますが、潰れたものが混じればうまくかみ合わず、塊ができないため、潰さずに出していただくをお願いいたしております。

モニターをお願いいたします。

(モニター使用) 写真の右側が、先ほど申しましたベールという四角い塊でございます。リサイクルセンターで造っております。右上がペットボトルのベール、右下が缶類のベールとなっております。

市民の皆様の御協力により、水洗いと潰さずに出していただくということで、適正なベールが出来上がっております。感謝申し上げます。

#### ○議長（吉川里己君）

4番中山議員

#### ○4番（中山 稔君）〔登壇〕

私も西谷峠近くにある武雄市のリサイクルセンターを見学してきました。

このプラスチックボトルのほうですね、先ほど言われましたように、市民の協力で、きれいに水洗いしていただいているということで、回収業者の方が、ここら辺の周辺の市町の中では一番きれいだということで褒めていただいているということがあります。

また、缶類で一番困るのは、この缶の中に吸い殻を入れてあることだそうです。せっかく回収してもリサイクルができず、燃えないごみとして廃棄するしかないということですので、缶類の中にたばこの吸い殻は入れないように、市民の協力をよろしくお願いしたいと思えます。

どうして、このようにペットボトルや缶類をきちんと洗浄が必要なのかということ、市民の皆さんに理解していただいて、同じ製品から同じ製品へ循環させる水平リサイクルを目指していただきたいというふうに思えます。

スライドをお願いします。

こちらは、8月2日の佐賀新聞です。プラごみ回収どうすればいいんですかということですね。コストや分別の方法など、課題が山積していますということですね。

また、市長は2020年の3月、2050年ゼロカーボンシティ in たけおを宣言されております。

武雄市は、先ほど答弁にありましたように、一度、プラスチックごみをサーマルリサイクル方式に変更して、燃えるごみとして取り扱われました。しかし、新法はその方式ではなく、水平リサイクルで再度製品化することを求めてあります。

海洋、環境汚染や地球温暖化問題などを鑑みると、もう一度、市民の皆さんに協力をお願いして、容器包装プラスチックと製品プラスチックを、プラマーク製品として回収していただきたいというふうに考えますが、新法に関する市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まずは、先ほど、缶やペットボトルなど、市民の皆さんには適切にごみを出していただいていることは、本当にありがたく思っています。

その上で、私たち、サーマルリサイクルを進めてきました。進めるには、やはりいろんなことを検討し、考えた上で進めてきたということであります。その後、新法が施行されて、私たちとしては、やはりこの新法を受けまして、循環型社会の実現、ゼロカーボン社会の実現に向けて取り組んでいかなければならないというふうに思っています。

そういう中で、先ほど答弁をしましてとおおり、4市5町、西部広域環境組合の構成市町の中でも、やっぱりプラスチックに対する対応も現在様々であるという状況でもありますし、再商品化で、回収をしたり、再利用のその仕組みをまた確立していかなければならなかったり、あとは、商品として新しく再商品化したものを、またじゃあその需要もつくっていかねばならない。そして、何より、中山議員も御指摘されたように、市民の皆さんですね、地球環境を守るということはさらなる負担もかかってくるというところ、そのあたりもやはり御理解とかもですね、いただいいていかなければならない。

要は、どこかだけ変えるというのは無理で、やはり循環型サーキュラーエコノミー、だからこそやっぱり全体を考えていかなければならないと思っています。

この点については今後、西部クリーンセンターの4市5町において、ここは積極的に協議を進めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

新法に沿ったプラスチック回収のほうを進めていっていただきたいというふうに思います。

それでは、最後の質問になります。

武雄市の定住・移住政策と子育て支援についてということで質問します。

こちらは、武雄市の周辺の市町の移住支援が、どこの市町が実施されているか、している、していないでマルカケと。内容はちょっと書いておりませんが、ちょっと調べてみました。各市町のホームページと担当者にお伺いしたところです。

こども加算をしてある市町、地域指定の加算をしてある市町、新築購入の加算、あとは新婚の加算ということをしてある市町もございます。

それでは、武雄市の移住・定住に関わる制度についてお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

モニターお願いいたします。

(モニター使用) 武雄市の支援制度でございますが、大きく4つの支援制度を準備させていただいております。

上3つにつきましては市の単独、一番下につきましては県、国との共同でのものがございます。

まず、定住特区補助金でございますが、転入時に50歳未満の方で、3年以上市外に居住される方を対象でございますが、市外から転入し、新築または中古住宅、空き家を購入、または賃借をして定住される方へ支援を行っているところでございます。

これにつきましては、子育て支援の加算金、また、地域による加算金等も用意をしているところでございます。

同居・近居移住支援給付金でございますが、これにつきましては、家族が武雄市に転入したことで、3世代の同居・近居が成立し、かつ、6か月を経過した方に対しまして補助金を支給しているものでございます。

次に、移住体験滞在費給付金でございますが、これにつきましては、市外から移住・定住を目的として、居住、仕事を探すために移住体験活動等を行う方に対してましての宿泊費の一部助成を行っております。

最後に、地方創生移住支援事業、また、さが暮らしスタート支援事業でございますが、これにつきましては、佐賀県外から移住される方に対しまして、単身で60万円、1世帯100万円を支給するもので、東京圏からの移住に対しましては、18歳未満のお子様1人につき30万を加算されるということで、これは国と共同で行う制度でございます。

○議長(吉川里己君)

4番中山議員

○4番(中山 稔君)〔登壇〕

こちらのように4つのプランを掲げて、移住に関する政策を行われているということが分かりました。

それでは、先ほどのこのプランですね。4つのプランで、過去5年間の移住者の推移をお伺いいたします。

○議長(吉川里己君)

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

(モニター使用) 失礼しました。

議員御質問の過去5年間の推移でございますが、先ほどの支援金等、全てをまとめた分の

実績でございますが、平成 29 年 16 人からスタートいたしまして、令和 3 年度、令和 2 年度にも若干、コロナ禍の関係で少し人の動きが止まったというところで下がっておりますが、全体的に増加傾向にあるということでございます。

**○議長（吉川里己君）**

4 番中山議員

**○4 番（中山 稔君）〔登壇〕**

ここ数年は 100 名前後の移住者がいらっしゃるということで、今月の 9 月 23 日、新幹線開業もありますので、ますます移住者が増えることを期待したいというふうに思います。

スライドをお願いします。

こちらはですね、武雄市の、金銭面じゃなくて、ごめんなさい、金銭面の子育て支援についてになります。

まず最初は、保育料の支援もございます。

放課後児童クラブの支援も、小学校 1 年生から 6 年生まであります。

学校給食に対する支援ですね。自校方式と、給食センター方式、それぞれにも支援がなされております。

医療費の助成ということで、未就学児と小学校から高校生まで、こちらのほうは医療費の助成がっております。

あと、児童手当・児童扶養手当等もございます。

武雄市では、4 月から、こども家庭課が新設されました。このスライドで示した金銭面の支援ではなく、ソフト面での子育ての支援についてお伺いします。

**○議長（吉川里己君）**

後藤福祉部理事

**○後藤福祉部理事〔登壇〕**

モニターお願いいたします。

（モニター使用）先ほど議員から御紹介いただきました、今年 4 月に福祉部内の児童福祉分野と母子保健分野を統合しまして、こども家庭課を設置しております。妊娠期から、おおむね 18 歳までの子育て期にわたり、切れ目のない支援を目指しているところでございます。

スライドに記載しておりますが、事業としては、妊娠期から幼児期までは、健診事業や相談業務などを行っております。

また、発達障害児や医療的ケア児の相談支援、ひとり親の子育てや就労、経済的支援の相談、児童虐待防止などに取り組んでいるところです。

家庭を真ん中に、教育、福祉、医療など、関係機関と連携し、お困りごとに寄り添い、支援を行っております。

**○議長（吉川里己君）**

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

窓口が一本化されたことで、切れ目のない支援ができるということになっておりますので、今後また、ますます期待したいというふうに思っております。

もう一つ、武雄市では、北方保健センター内に武雄市子育て総合支援センターが設置されております。この子育て総合支援センターでのソフト面についても、支援策をお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

秋月こども教育部長

○秋月こども教育部長〔登壇〕

子育て総合支援センターでは、武雄で子育てしてよかったと思えるよう、子育ての不安緩和や子供の健やかな育ちを支援するため、次のような事業を行っております。

モニターをお願いします。

（モニター使用）妊娠期の子育て支援では、妊婦同士の交流を目的とした、マタニティヨガ&胎教パステルアートを開催しております。

乳幼児期の子育て支援では、親子同士の交流、仲間づくりの場として赤ちゃんひろばや、センターでのおひさまひろば、各町公民館での地域ひろばなどを行っております。

また、音楽やダンスの講師を招いてのリフレッシュ教室も開催しております。そのほか、子育て相談、子育て通信「くすくす」や、子育て応援ガイドブック発行等による情報発信、ファミリーサポート事業、子育てサポートなどの支援者育成事業なども行っております。

○議長（吉川里己君）

4番中山議員

○4番（中山 稔君）〔登壇〕

ソフト面での支援策ということで、こども家庭課や武雄市子育て総合支援センターのことをお聞きして、武雄市にはすばらしい子育て環境がここにあるということが分かり、安心しました。もっと内外に宣伝していただきたいというふうに思います。

スライドをお願いします。

こちらは、出生祝金について、ちょっとまた周辺市町のところを調べました。大町町、江北町とか、太良町は出生祝金を継続されているということです。祝い金じゃなくて、例えば中には、お米等をお配りしてあるというところも聞いております。

それでは、武雄市において出生祝金がなくなった経緯についてお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部理事

○後藤福祉部理事〔登壇〕



議員御質問の出生祝金についてでございますけど、国における当時の子ども手当制度の創設や、子どもの医療費助成事業の対象を拡充したことなどにより、平成24年9月30日をもって廃止を行っております。それ以降、平成24年10月以降ですけど、フォトスタンドを贈呈していましたが、平成26年度から子どもの医療費助成事業を小中学生の通院まで拡充する際に廃止を行っております。

現在、出生祝金を行っておりませんが、母子手帳交付の際に、保護者の方へ育児の参考といたしまして、こどもノートというものを贈呈しております。

また、子供さんが生まれられて5か月時にもぐもぐ教室というのを実施しておりますが、その際に、子供さんの発達のためにということで、絵本のプレゼントを行っているところでございます。

**○議長（吉川里己君）**

4番中山議員

**○4番（中山 稔君）〔登壇〕**

医療費助成の拡大のために、出生祝金を廃止された経緯については分かりました。実際は、出生祝金を出せないから、そのほかにもノートとか、もぐもぐの絵本とか、そういうのをプレゼントされているということが分かりました。

最後に、市長にお伺いいたします。

冒頭で回答していただいた、定住・移住支援策は、西九州新幹線開業に伴う移住支援策の一つだというふうにも思います。

移住者は、年間100名前後、それに比べ、赤ちゃんの誕生は年間370名前後です。晩婚化や未婚化が進む中、2人目、3人目を出産されている家庭があります。

移住者ばかりではなく、市内に住み続けている方々にも目を向けていただき、定住支援策の一環として、出生祝いはいかががでしょうか。出生祝金がベストですけど、1歳までは、おむつが多く要ります。

私の浅知恵で大変申し訳ございませんが、出生祝いとして、さほど金額がかからないごみ袋を赤ちゃんへの誕生プレゼントの一つとして考えるのはいかががでしょうか。

また、保健師さんが赤ちゃんを訪問される際のプレゼントとして、ごみ袋をお渡しされるのはいかががでしょうか。

そのほかにも、いろんなアイデアがあると思われれます。定住支援策として、子育て支援への思いやお考えを市長にお伺いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

私が市長に就任してから子育て、教育に力を入れて、言わば、子育て、教育を一丁目一番

地として進めてきました。その例として、こども図書館とか、あとはデジタル教育、あとは神村学園も武雄に来ていただきましたし、あと病児保育、子供の貧困、あと発達障害児の支援とか、そのあたりを幅広くやってきました。要は、武雄で子育てして楽しい、安心して子育てできる、そんなまちを目指していこうということで、これまでやってきたところです。

そういう中で、出生祝金、例えば、今スライドにもありますけれども、これも一つのアイデアであると思います。ほかの市町でもやっておりますので、私も市民の方から直接言われたこともあります。尋ねられたこともあります。

そういった中で、定住につながるかどうかということであると、例えば、親からすると、もう少し長い目で見て、子供が少しずつ大きく育っていくときに、いかに安心して子育てできるか、そういったあたりに力を入れていくのが定住にもつながっていくんじゃないかと私は思っております、それで医療費助成も、先ほど紹介いただきましたけれども、昨年高校生まで助成を拡大したところです。

今後も引き続き、様々な取組をして、とにかく、おっしゃるとおり、新幹線も開業いたしますので、子育て、教育には引き続き力を入れ、さらにPRも、これまで以上にやることで、もうわざわざ選んでも、この武雄で家を建てて住みたいという方をぜひ増やしていきたいと思っております。

ただ、出生祝金じゃないですけども、やっぱり子供が誕生したというところは、やっぱりみんなでお祝いをするという気持ちは大事だというふうに思いますので、定住は定住につながる子育て支援というのがありますけれども、この少子化の中で、子供が誕生したことをやっぱりお祝いをして、武雄で生んでよかった、うれしいというふうに思ってもらえるようなことが、ノート以外に何かないかというところは別途考えていきたいと思っております。

**○議長（吉川里己君）**

間もなく正午となりますが、会議を続けます。

4番中山議員

**○4番（中山 稔君）〔登壇〕**

出生祝金ばかりが誕生プレゼントじゃないというふうに思いますので、いろんなアイデアを皆さんからいただいて、お祝いをしていただければというふうに思います。

これで、私、4番中山稔の一般質問を終わらせていただきます。

**○議長（吉川里己君）**

以上で、4番中山議員の質問を終了させていただきます。

**日程第2 議提第1号**

日程第2. 議提第1号 はがくれ時評に関する申し入れを行う件を議題といたしたいと思っております。

先日の山口議員の動議を受け、議会運営委員会で協議いたしまして、本日の日程に追加し

て行うものであります。

提出者から趣旨説明を求めます。17番山口議員

**○17番（山口昌宏君）〔登壇〕**

こんにちは。はがくれ時評に関する申入れ書ということで、趣旨説明をさせていただきます。

趣旨説明は文書をもちまして、趣旨説明とさせていただきます。

9月6日にサガテレビ「解説主幹のはがくれ時評」において、「新幹線開業日は、消えゆく在来線沿線住民にとっては「葬式の日」との記述がありましたが、コロナ禍、水害等々を乗り越え、数十年にかけて西九州新幹線開業の日を待ち続けた我々にとっては、これらの地域を盛り上げるためのお祝いの日でもあります。

さらに、「捨て子」「養子」といった比喻については、出自を差別する表現と受け取られかねないものであります。

今回の「葬式の日」「捨て子」「養子」という表現の在り方については、断じて許されるものではなく、強く申入れをしたいと思います。

以上で、趣旨説明に代えさせていただきます。

**○議長（吉川里己君）**

提出者に対する質疑を開始いたします。12番池田議員

**○12番（池田大生君）〔登壇〕**

少し質問をさせていただきます。

この文面の中で、葬式の日ということで上げておられると。先日の一般質問の中のモニターで出されたことが原因というか、これに端を発しているのか、それとも、はがくれ時評の文面を見られてからのことになるのかというのは、一般質問に出されたモニターは、切り取られていますよね。

はがくれ時評の、たしか、私が取った資料の中には、「新幹線開業日は、消えゆく在来線沿線住民にとっては「葬式の日」と言う人もいる。悲運である。」と最後に書いてあります。違うものを見たら、何かこれとまた違う記述が書いてあるやつをちょっと見たのですが、私が取ったのは、葬式の日と言う人もいるという文面を私は確認させていただいたんですよ。

この違いについては確認をされたのか、そこをお尋ねします。

**○議長（吉川里己君）**

17番山口議員

**○17番（山口昌宏君）〔登壇〕**

私は、牟田議員の質問の中でのことではなくって、見た感じ、見たところで動議を出したわけでありまして、今、言われたその文言の中の葬式の日ではなくって、悲運の西九州新幹線開業の日が「葬式の日」という、はがくれ時評で書いてあったものですから、これはいか

にも作為があるということで、動議を出したというのが私の考えです。

以上。

**○議長（吉川里己君）**

ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑をとどめます。

お諮りいたします。本案は所管の常任委員会付託を省略したいと思えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、本案は所管の常任委員会付託を省略することに決定をいたしました。

本案に対する討論を開始いたします。討論ございませんか。20番江原議員

**○20番（江原一雄君）〔登壇〕**

ただいま議題となりました議提第1号「はがくれ時評に関する申し入れの件」につきまして、反対の立場で討論するものです。

動議として山口昌宏議員から提案をされました。問題点を指摘したいと思えます。

第一に、この件で問題になっているのはがくれ時評のことについてですが、発信されたのは当初9月6日14時21分です。それが修正をされて、14時43分に訂正の発信がされております。

先ほど質疑でもありましたように、当初出された「葬式の日」とされる。悲運である。」というのを、14時43分には「葬式の日」と言う人もいます。」というふうに訂正をされております。

私が、一般質問で取り上げた牟田議員は、9月8日9時の当初の第1番目の一般質問者でした。

これを私は時系列で振り返ってみますと、もう一般質問の聞き取り、レクチャーは済んでいたのではありませんか。（発言する者あり）私がレクチャーで、三間坂駅のトイレの管理の件につきましてお尋ねしたら、もう聞き取りは済んでいます、レクチャーは済んでいます。議会事務局から、7日の朝、指摘をされました。強硬でした。

私は、このような議会運営の進め方は、武雄市議会の中でも異常な姿ではないでしょうか。そして、牟田議員の質問に対して答弁に立った市長も、この壇上から抗議しますと、厳しい答弁をされました。私は、このやり取りを聞いていまして、この文言、それぞれ受け止めはあろうかと思えます。

この件につきまして、まさに、この文言につきましては、提案の山口昌宏議員も申し上げられましたけれど、不適切な部分もあります。そういう意味では、議案として、議提として

出す場合、賛成、反対、十分な審議を尽くして議決するべきではないでしょうか。そうしたことがない限りは、賛成多数で強行されるようなことになれば、武雄市議会としての、まさに決定した事項になるわけです。

民主主義社会の中で、当然、いろんな主張はあつてしかるべきと私は認識しています。それと同時に、その認識に対しても、様々な形で伝えることができる手段はたくさんあります。

でも、市議会に提案して……（発言する者あり）権力として提案するこの山口昌宏議員の議提の提案については問題があると、第1に申し上げる次第です。

第2に。

○議長（吉川里己君）

すみません、議提第1号に対しての討論をお願いいたします。

○20番（江原一雄君）（続）

だから言っているんですよ。（「言っとらん」と呼ぶ者あり）

○議長（吉川里己君）

ここでは一般質問には関係ありませんので。

○20番（江原一雄君）（続）

第2は、議提となっていますが、このような事例を拙速に提出することに異議を唱えるものであります。私は、この議提がもっと慎重に取り扱うべきだということを、反対討論として申し上げる次第であります。

今、私の討論の中でも、もうこの議決に退場されている議員もいらっしゃいます。まさに拙速だということを申し上げて、反対の討論に代えるものであります。

○議長（吉川里己君）

討論ございませんか。18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議提に関して賛成の立場で討論いたします。

議提に関しては、先ほど言われましたように、葬式の日、そして、そのほかの言葉の使い方があまりにもひど過ぎるのではないかとこのところが中心でありました。

また、私自身のことも言われましたので、時系列に関しては、私自身、質問のほうで新幹線とJR、そして、武雄市の浮揚、その件に関して質問しますということを言って通告はしております。この件に関して、言葉の中の一つでやり取りさせていただきました。

そしてもう一つ、江原議員が言われました、「葬式の日」とされるというのを一番最初に出されていたんですね。それがいつの間にやら、「葬式の日」と言う人もいるという形に書き換えられています。

ここでも言わせていただきました、葬式という言葉。例えば、何々が死んだ日とか、終わりの始まりとか、そういう言葉は聞きます。でも、葬式という言葉は、我々一般ではなかな

か聞くものではありません。

そういう中で、これをあえて葬式の日という言葉を使ったということは、それまでに昭和50年以来、新幹線ひかりをさらに西へということで努力していただいた方々に対して、非常に失礼な言葉だと私は思います。日本人の感覚からいうと、葬式の日、そういう言葉はあんまり使わない、通常使わない。

そういう意味においても、これを使って、このお祝いする、新幹線開業に向けて、放送のホームページであるところに載せてそれが書かれていた。そういうことに対して抗議をする、当たり前の話だと思います。

以上、御賛同をよろしくお願いいたします。

**○議長（吉川里己君）**

討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論をとどめます。

本案は起立により採決を行います。本案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

着席ください。

起立多数であります。よって、本案は可決されました。

ただいま議決されました議提第1号につきましての申入れは、明記されておりますところに送付をさせていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会をいたします。

散 会 12時14分